

# 大阪薬科大学報



大阪薬科大学広報委員会

2005年（平成17年）7月1日発行

## 目次

|                                |                      |         |    |
|--------------------------------|----------------------|---------|----|
| 学生の皆さんへ                        | 学長                   | 矢内原 千鶴子 | 1  |
| (財) 大学基準協会加盟判定審査ならびに認証評価結果を受けて | 学長                   | 矢内原 千鶴子 | 2  |
| 就任の挨拶                          | 薬物治療学研究室教授           | 田中 孝生   | 3  |
| 就任の挨拶                          | 微生物学教室助手             | 土屋 孝弘   | 3  |
| 就任の挨拶                          | 創薬基盤科学研究室客員教授        | 小林 祐次   | 4  |
| 就任の挨拶                          | 臨床薬剤学教室教務職員          | 加藤 隆児   | 4  |
| 退職の挨拶                          |                      | 稲森 善彦   | 5  |
| 稲森善彦教授ご退職に寄せて                  | 微生物学教室教授             | 辻坊 裕    | 5  |
| 教務部長就任の挨拶                      | 教授                   | 松村 靖夫   | 6  |
| 学生部長就任の挨拶                      | 教授                   | 木村 捷二郎  | 6  |
| 新教育制度への対応について                  | 学長                   | 矢内原 千鶴子 | 7  |
| 創立百周年記念募金事業を終えて(御報告と御礼)        | 創立百周年記念募金事業委員長 理事長   | 川島 康生   | 8  |
| 創立百周年記念募金事業の終了について             | 創立百周年記念事業募金委員会       |         | 9  |
| 新入生交流・導入教育                     | 学生部長                 | 木村 捷二郎  | 9  |
| 平成16年度進路・就職状況について              | 就職部長                 | 田中 一彦   | 10 |
| 第90回薬剤師国家試験の結果と今後の方針           | 薬剤師国家試験対策委員長(平成16年度) | 掛見 正郎   | 12 |
| 学生相談室からのメッセージ                  | 学生相談室相談員             | 岡 鈴佳    | 14 |
| 環境整備事業                         | 環境保全委員長              | 木村 捷二郎  | 14 |
| 平成16年度後期授業・実習評価アンケート           | 教務部長                 | 松村 靖夫   | 15 |
| 平成17年度公開教育講座                   | 公開教育講座委員長            | 玄 番 宗 一 | 17 |
| 平成17年度市民講座                     | 市民講座委員長              | 馬場 きみ江  | 17 |
| 平成16年度学校法人決算および平成17年度学校法人予算    | 事務局長                 | 肥塚 敏彰   | 18 |
| 教務課だより                         |                      |         | 20 |
| 総務課だより                         |                      |         | 22 |
| 入試・広報課だより                      |                      |         | 24 |
| 学生課だより                         |                      |         | 27 |
| 就職課だより                         |                      |         | 28 |
| 経理課だより                         |                      |         | 29 |
| 図書課だより                         |                      |         | 29 |
| 教員研究業績(2004年)                  |                      |         | 30 |
| 薬用植物の紹介                        | 薬用植物園長               | 馬場 きみ江  |    |

大阪薬科大学報は、これまで創刊号より一貫してB5判にて発行してまいりました。このたび誌面を大きくすることにより、情報量の充実を図るとともに、より分かりやすく読みやすい誌面づくりを目指すと、今回の51号よりA4判にて編集・発行を行うことになりました。今後とも、新しい学報をよろしくお願いたします。

(広報委員会)

51

## 学生の皆さんへ

学長 矢内原 千鶴子

今年はキャンパスのつつじの花の美しさに目を見張るものがありました。丁度その盛りが連休中であり、楽しむ時間が短かったのが心残りではありました。比較的長かった連休を終え、入学後の緊張も少しはほぐされたことと思います。大学生生活の輪郭が僅かながらにでも理解されたことでしょうか、これから本格的に忙しい学修の日々が続きます。4年という歳月は終わってしまえば人生の瞬きの間に過ぎないのかもしれませんが、学ぶにしても遊ぶにしても、思う存分自身を弾けさせてください。今年の満開のつつじのように。それが「青春」というものでしょう。

自由に感想や意見を記述していただいた「薬学概論」のレポートの中で、多くの皆さんが来年度からはじまる6年制の薬学教育と自分たちの受ける4年制の教育の内容の差、卒業後に生じるかもしれない薬剤師能力の差などをたいへん懸念していました。確かに2年間の差は時間的にも内容的にも大きいものがあるでしょう。しかし、それを案じている多くの方々が、一方では、だから負けないよう努力していくと積極的な姿勢を見せていました。頼もしく嬉しく思ったところでもあります。既にご存知のように、学校教育法の一部改正により「薬学を履修する課程のうち、臨床に係る実践的な能力を培うことを主な目的とするものの修業年限が6年」となりました。それに伴い、医療薬学・臨床薬学系の科目の強化と長期実務実習（実務実習に先立つ1ヵ月間の導入教育も含め6ヵ月）の実施がなされます。本学では現在、一部3ヵ月の長期実務実習（選択必修）を受ける人もありますが、ほとんどが1ヵ月実習（必修）であり、新制度下とは大きく異なることとなるでしょう。しかし、大学在学中に行う実務実習には、何かと制限があり限界があります。皆さん方が薬剤師として現場で働きながら体得する経験とは比較になりません。皆さん方が就職される時はまだ薬学生全員が例外を除いて1ヵ月の実務実習しか受けていないということ、6年制課程卒の学生が社会に出るまでには2年の空白があることなどを考え合わせても、そんなに心配する必要はないでしょう。私自身の経験からも、医療現場の厳しさは短期間の実習で身につけた知識や技能だけで乗り越えていけるものではないと思っています。むしろ、卒後の研修や実務での精一杯の努力と精進が、十分その心配を解消してくれることと信じています。医療・臨床薬学についても、本学では既に6年制課程のカリキュラムに準じた4年制カリキュラムを編成しています。少なからず窮屈な内容になってはいますが、これらをしっかりと身につけていけば、皆さん方の現在もっている不安は不要のものとなるでしょう。先生方も色々な

配慮をしながら現4年制課程の教育の充実に力を注いでいます。

大学生生活の中には学修ばかりではなく、様々なことがあります。中には重要な、また深刻な問題もあるでしょう。考えれば不思議ともいえる縁があって同じ学舎で過ごすことになった皆さんが、皆さん同士は勿論、先輩、教員の先生方、事務職員の方々との互いの自由な意思の疎通があってはじめて学修に打ち込める快適な環境を作り上げることが出来ると思います。最近広く求められている薬剤師のコミュニケーション能力もまた、そうした日常生活の中で、何気なく身につけた習慣の中で育まれていくものだと思っています。少なくともキャンパス内では誰とでも気軽に会話の出来る環境作りが必要でしょう。それによって授業もまた教員からの一方的ではない全員参加型の更に実のあるものとなっていくと思います。クラブ活動もそうした意味では良いコミュニケーションの実践の場ではありますが、ややもすればクラブ構成員の交友関係の中にのみ限られてしまう傾向があります。誰とでも話せる、その中で人間観察を積み重ね、将来どんな患者さんと向き合っても臨機応変の対応が出来る柔軟な洞察力に富む人間性を養って頂きたいと思います。

本学創立100周年記念事業の一環として、海外学術交流基金が設けられ、特に学生間の国際交流を進めることになりました。昨年は、クイーンズランド大学（オーストラリア）薬学部との交流協定を結びました。さらに欧米、アジアの大学との協定が予定されています。皆さん方も進んでこうした活動に参加し、国際人としても成長して下さることを願っています。国外ばかりではなく、国内の大学間でも様々な交流が盛んになってきています。本学でも既に大阪医科大学をはじめとして、いくつかの大学と交流協定を結んでいます。一方、大阪地域では既に「大学コンソーシアム大阪」（大学コンソーシアム大阪ホームページ）が組織されていますが、その活動の一環として平成18年度より会員大学間での単位互換制度が発足することになりました。それに組み込まれる講義の数はまだ十分多くありませんが、軌道に乗れば皆さん方にとって学修意欲を十分に刺激するものになると思います。「薬学」という限られた世界に閉じ込めることなく、広く知識を求めて下さることを願っています。

最近の問題を2、3挙げてみましたが、他にも色々なことがあると思います。誰にでも遠慮なく相談してください。皆さん方にとって、これからの4年間の大学生活が充実したそして何よりも楽しいものになりますよう祈っております。

## (財)大学基準協会加盟判定審査ならびに認証評価結果を受けて



学長 矢内原 千鶴子

大阪薬科大学は、このたび学校教育法により大学に義務づけられることとなった国の認証する機関（認証評価機関と言い、今回は財団法人大学基準協会）による評価を受け、平成17年3月22日、大学基準に適合するものとして認証を受けることが出来ました。大学設置に際し従来行われてきた国による事前審査が最小限にとどめられ、代わって、設置後の大学の組織運営や教育研究活動などの状況について定期的（7年毎）に認証評価機関による評価を受け社会に公表することが義務づけられました。いわゆる規制緩和・規制改革政策の一環とも言えるものでありますが、大学の質の保証に係る新しいシステム、第三者評価制度として平成16年4月1日より導入されたものであります。評価の基準（大学基準）は認証評価機関によって定められており、[理念・目的]、[教育・研究組織]、[教育内容・方法]、[学生の受け入れ]などに始まり、[財務]、[情報公開、説明責任]などに至る全15項目にわたっていました。大学はまずこれら個々の項目について自己点検・評価を行い報告することになっています。本学では平成9年“大阪薬科大学の現状と課題—教育と研究”と題して自己点検・評価結果を公表しています。しかし、当時多くの大学で行われていた“外部評価”は行われておらず、第三者の評価を受けるのは本学にとってはこれが初めての経験でありました。新しい第三者評価制度が定められての初回の実施であり、その内容の詳細について十分知ることなく、その準備に入りました。実際は、偶然にも遅れていた本学の大学基準協会への加盟審査手続きを始めようとしていた矢先のことと、新制度発足に伴い急遽併せて認証評価を受けることになったというのが実情でありました。自己評価委員会ももとより教務、学生、就職、図書各委員会と関係事務部門、研究委員会、大学院委員会など学内全領域の協力を結集して自己点検・評価作業を実施し、その結果を全176頁の報告書にまとめて大学基準協会に提出したのが平成16年4月でありました。決して単純な作業ではありませんでしたが、これが本学にとって認証を得ることよりもむしろ重要であったと言っても過言ではないでしょう。大学基準に定められた各項目ごとに自己点検・評価していく中で本学の現状を細部にわたって明確に再認識するところとなり、その長所と短所、特に改善・改革しなければならない問題点を改めて自覚することが出来たことは、本学の今後の発展にとって何ものにも代え難く有意義であったと思います。また、一方では、本学には長い歴史と伝統があればこそ可能であった誇るべき先人の遺産は多く、その恩恵を実感したところであります。

大学基準協会からの認証評価結果報告書では、多くの点で長所として評価を受けました。しかし、一方では、

厳しい指摘や助言を受けた問題点も少なくありませんでした。これらは、今後の本学の自己改革の努力の中で貴重な参考意見として生かされていくことと思います。しかしながら、これが第三者評価制度施行の初回であったこともあり、また、本学の自己点検・評価報告書の作成技術に不十分さ、不適切さのあったことも否定できないところではあります。分科会報告書も含め大学基準協会の評価結果報告書には現実との乖離など十分納得し難い点のあったのも事実であります。完全公正な“評価”は日本人の最も苦手とするものの一つであり、その上、本制度が初めての施行であること、実施視察をはじめ評価作業にかかる時間的制約、評価委員の質、量の確保が十分でない現状をおもんばかれれば完全性を求めるのは性急に過ぎるかもしれませんが、大学には評価結果の公表が義務づけられている限り、その結果に対する評価される側の意見への時間をかけての十分な配慮も望まれるところであります。特に、従来文部科学省による視学制度が主として行ってきた具体的な数値や基準をもとに評価する対象は別として、報告書の作成技術や評価委員の個人的な専門分野、主義、主張、信条などによって影響を受け得るような評価対象に対する評価のあり方には難しいものがあるように思います。こうした評価制度が、やがては画一的な官製もどきのものとなり、大学の自由な発想に基づく発展を阻む結果になることのないよう願うところであります。

現在までのところ国から認証された認証評価機関は、大学基準協会と大学評価・学位授与機構の二つで、その評価対象となるのは前者は殆どが私立大学、後者は国立大学法人が中心と予想されています。さらに日本私立大学協会が私学に特化した認証評価機関の設立を目指しています。法改正がなされて間もない現在、薬学領域では機関別評価が必要とされていますが、やがては専門分野別の第三者評価も求められることになると言われています。大学にはどの認証評価機関を選ぶかの自由がありません。大学に評価結果の公表が義務づけられている以上当然であり、今後は認証評価機関にも選ばれるための努力が求められると言えましょう。今回大学基準協会から得られた本学の認証は、5年後の平成22年3月31日までであります。これは同協会の定める相互評価を兼ねているためであり、他の認証評価機関を選ぶならば、法の定めに従い7年後でよいということになります。本学が次回は、いずれの認証評価機関を選ぶか、種々の検討も必要と考えられます。今回の評価が、全て納得のいくものではなかったとはいえ、本学が改善・改革すべき問題点を内包していることには相違なく、それらの点について早急に適切に対処していかねばならないと考えます。



## 就任の挨拶

薬物治療学研究室 教授 田中 孝生

これまで20年近く、大阪医科大学で医学部学生・大学院学生の講義・研究（循環器病・腎臓病の統合講義、ポリクリニック、ベッドサイドティーチング）を担当してきましたが、本年4月1日付で大阪薬科大学薬物治療学研究室に着任いたしました。不慣れな環境ですが、教育と研究に誠心誠意最善を尽くしたく決意しておりますので宜しくお願い申し上げます。

近年、医学部の教育方針に大幅な変更が加えられ、従来の統合講義と呼ばれる知識の一方通行的な伝達から、学生が主体的に考えるproblem based learning：PBL という方式や、さまざまな知識を基礎として情報収集能力、総合的判断能力の育成を目的とした客観的臨床能力試験（Objective Structured Clinical Examination:OSCE）（オスキーと呼ばれる）が取り入れられ、近々医師国家試験にも組み込まれる予定です。OSCEの特徴は、訓練された模擬患者に対して、学生が医療面接や技能試験を実施し、試験官は学生と模擬患者とのやりとりを観察し、目標となる項目について、「何を」「どの程度」達成できたかを点数方式で評価を行うことです。一方、PBLはあるシナリオから問題点を抽出し、その問題を解決するのに必要な情報を学生自身が見つけ出すという方法です。今までは問題がありそれに対する答えがあるという教育法でしたが、問題解決への道

順を重視する方向へ転換しつつあります。換言すれば自分で判断でき、かつ対人関係を重視した医学教育に変わりつつあるということです。

病院での薬剤師も従来の縁の下の力持ち的な役割から、チーム医療の一員として積極的に治療方針の検討に参画し、また直接患者さんと接する機会が増えつつあります。薬学部でも将来PBLやOSCE（共に少人数を対象とし教職員の負担は大変ですが）に似た教育システムが必要となる時期もそう遠くないような気がします。

これまで外来や病棟で患者さんの治療にあたり、医学部学生の教育に携わってきた経験を生かし、将来医療人として同じ土俵に立つ学生諸君への橋渡しとして、薬学部での教育に少しでもお手伝いができればと考えています。

科学の発展に伴い、覚えることが増え学生の負担になっていることは確かです。昨今、覚えることに追われ学問の喜びを知らずに卒業していく学生が多いようです。研究面では、シラバス（授業概要）に載っているからではなく、魅力的であるからこそ問題を究明していく喜び、学問の面白さを共に学ぶという姿勢を大事にして、学生諸君と共に過ごしたいと考えています。4年あるいは6年で「学問を楽しむ」というほど十分な時間はないと思いますが、楽しみ方だけでも垣間見る機会を学生諸君に提供できればと考えています。



## 就任の挨拶

微生物学教室 助手 土屋 孝弘

この度、平成17年4月1日付で微生物学教室（辻坊裕教授）の助手として就任いたしました土屋孝弘です。着任にあたり、自己紹介を兼ねまして御挨拶を申し上げます。

私は、大阪大学大学院薬学研究科で山元弘教授の指導の下、「免疫学」の基礎と面白さを学びました。学位を取得後、高知医科大学（現高知大学医学部）脳神経機能統御学教室で助手として、臨床医と共に、悪性脳腫瘍の遺伝子治療法の開発とパーキンソン病の細胞移植療法の開発を、主にウイルスベクターや移植細胞に対する拒絶（排除）反応など免疫学的観点から3年間研究を行ってきました。そこでは、臨床に即した医学部特有の研究の進め方を学び、その効率の良さを実感いたしました。この

経験を生かし、今後は病原性微生物が宿主の免疫反応から逃れるメカニズムを解析し、新たな感染症治療薬の開発を目指し、研究を行いたいと考えています。

平成18年度から始まる薬学教育6年制を目前に控え、薬学部が大きく変化するこの時期に、100年以上もの歴史のあるこの大阪薬科大学で教育者、研究者として仕事ができることに、幸せを感じるとともに、強い責任を感じております。これまで諸先輩方が築き上げてこられた伝統に恥じないように、大阪薬科大学をより魅力ある大学にするため、教育研究活動に少しでも貢献できるよう、まだまだ若輩者ではありますが、全身全霊の努力をする所存であります。先生方の御指導の程、よろしく願い申し上げます。



## 就任の挨拶

創薬基盤科学研究室 客員教授 小林 祐次

この4月より、本学に客員教授として勤務させて頂くことになりました。何卒よろしくお願ひ申し上げます。大阪大学理学部に入学以

来、40有余年に亘り同大学で研究、教育に従事してまいりましたが、このたび定年退職いたすことになり、本学でお世話になることになった次第であります。就任してまだ2カ月ほどであります。美しい阿武山の山並みを背に、大阪平野が窓外に広がる静かな環境のもと、研究に専念することを許していただく幸運を享受させて頂いております。矢内原学長はじめ招聘にご努力くださった先生方に感謝申し上げます。

少し自己紹介をさせていただきますと、大阪大学では長く蛋白質研究所に所属し、日本の生物物理学の創始者の一人であられた伊勢村寿三先生の下で、「蛋白質の溶液物性」を研究してまいりました。特に、DNAの遺伝情報から蛋白質の高次構造が規定されていることに興味を持ち、アミノ酸配列と立体構造を結びつける原理を解明したいと考えてきました。具体的には、コラーゲンの単純でかつ特徴的な高次構造である三本鎖左巻きヘリックスを取り上げ、学部4年次生で与えられたテーマにいまなお継続して取り組んでおります。この過程で30年ほど前より溶液中でのポリペプチドの詳細な構造解析の必要を感じ、ちょうど実用化が可能となり始めた超伝導磁石

を用いた高分解能NMR法の開発に取り組みました。溶液中での分子の構造、運動性さらに分子間相互作用が解析できるNMRの面白さに魅せられ、多核多次元法やディスタンスジオメトリー解析といった手法の生理活性ペプチドへの適用、開発ならびにその応用に没頭してきました。種々の酵素をはじめ、ペプチド性ホルモンなどの構造解析に成功してみると、その構造構築原理に止まらず、それらの機能発現の機構をも解析したくなってきます。ペプチドの化学合成法の開発、遺伝子操作の実用化に伴ってアミノ酸配列を人為的に改変することが可能となると、分子をデザインしたくなります。このようにして15年ほど前より、天然の蛋白質、ペプチドの情報から合理的に医薬を設計することを目指し始めました。結果、10年前には蛋白質研究所から薬学部に移り、創薬を目指した生物物理化学の研究を始めました。いくつか興味あるテーマを見出したところで本学に移ることになりました。

NMRやX線解析などによる構造決定を行うだけでなく、得られた構造情報を用いて分子間相互作用を解析し、医薬の合理的設計を行いたいと考え、「創薬基盤科学研究室」を開設させていただきました。今後、皆様と共に研究に従事でき、本学の発展に少しでも寄与できればと願っております。皆様方のご好誼とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



## 就任の挨拶

臨床薬剤学教室 教務職員 加藤 隆児

このたび、平成17年4月1日付で臨床薬剤学教室（田中一彦教授）に教務職員として着任致しました加藤隆児と申します。

私は、大阪大学大学院薬学研究科を修了後、四日市社会保険病院で病院薬剤師として勤務しておりました。四日市社会保険病院は、病床数295床の総合病院であり、院外処方箋枚数は1日約400枚、薬剤師8名の総合病院です。薬剤師が少ないため、毎日の調剤からTDMの解析、院内製剤の作成、注射の混合等全てをこなさなくてはなりません。薬剤師業務の一つに病棟での薬剤管理指導業務があります。病棟では様々な問題が起こりますが、理論では解明できない難問もあれば、初歩的ではあるものの解決せずに置き去りにされている問題もありまし

た。様々な問題に直面するたびに、薬学部これらの問題を持ち帰り解決できれば、さらに医療に貢献できるのではないかと感じておりました。そうした中で、自分も臨床現場で生じた問題点を大学に持ち帰り、週末に大学で実験を行う毎日をご過ごしました。実験を行い問題が解決できると、病棟の患者様にも説得力のある指導を行うことができ、また、医療スタッフには具体的なデータを示せるため、「臨床から基礎」そして「基礎から臨床」への薬学的サイクルはとても重要なことであると思えました。これらの経験が大阪薬科大学における教育研究活動に活かせるよう、できる限り努力をしていきたいと思っております。

ご迷惑をお掛けするかと思いますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。



## 退職の挨拶

稲森 善彦

「光陰矢の如し」といった諺ではありませんが、私が恩師東北大学名誉教授故竹本常松先生のご推薦により大阪薬科大学の助手としてお世話になりましたのが昭和42年4月で、38年の歳月を経ました。お蔭様で、本年3月31日付で、無事定年退職を迎えさせていただきました。これも偏に教職員、事務職員の皆様方ならびに関係各位のご支援とご協力によるものと心から感謝いたしております。振り返りますと、60歳頃までは元気澆刺とした学生諸君と接し、良き同僚とも楽しい日々を過ごさせていただいておりました。しかし60歳を過ぎましてから、前立腺腫瘍の手術をはじめとして、肝障害による入退院を繰り返し、昨年10月には腰部脊柱管狭窄症の手術を受けることになり、最後の最後まで、皆様方にご迷惑をお掛けいたしましたことを、この場をお借りしまして改めて深くお詫び申し上げます。

今から、振り返りますと、大学に残らせていただいていた一番良かったと思いますことは元気な学生諸君と常に接することのできたことです。38年間在職中に二度も学生部長に選出されました。何一つ取り柄のない私がどうして二度も学生部長に選出されたのかを不思議に思いま

したが、要するに、先生方が、「稲森は学生が好きで、学生諸君との窓口にもってこいの人物だ」という結論に到達されたのだと私なりに解釈しました。二度4年間で、一番痛切に感じましたことは学生の治安を守ることでした。

学生部長一人の責任でないことは分かっていますが、やはり、立場上、通学途中での事故をはじめ、研究や実習のために夜遅く帰宅する学生諸君の治安など、道義的な責任があり、夜遅い電話の音が一番嫌でした。この後遺症は退職後の現在も続き、出来る限り、電話口には出ないことにしております。幸い、学生課長様はじめ学生課職員の皆様のご尽力により4年間、無事故で終えることができました。この場をお借りしまして学生課の皆様方に厚く御礼申し上げます。

私の好きな言葉で、奈良壺坂寺の五世住職常盤勝憲師のお言葉である「以春風接人」がありますが、私は38年間学生諸君と、常に『以春風接学生』の精神でもって付き合っていましたつもりであります。最後になりましたが、大阪薬科大学の益々の御発展と教職員の皆様方の御健勝をお祈りいたしまして私の退職にあたっての挨拶に代えさせていただきます。有難うございました。

## 稲森善彦教授ご退職に寄せて

微生物学教室 教授 辻坊 裕

稲森善彦先生には、平成17年3月31日をもって定年退職されました。

先生は、昭和37年3月に大阪薬科大学薬学部薬学科をご卒業され、続いて、同年東北大学大学院薬学研究科修士課程に進まれました。昭和39年3月に同課程を修了され、同年4月に東北大学医学部薬学科生物薬品化学教室および細菌学教室の研究生として研鑽を積まれました。昭和42年4月に大阪薬科大学微生物学教室の助手として着任され、昭和43年4月に講師、昭和54年4月に助教授に昇任されました。また、昭和54年1月には九州大学から薬学博士の学位が授与されました。その後、平成元年4月に大阪薬科大学微生物学教室の教授に昇任され、今日まで教授としてご活躍されてこられました。

学内におきましては、研究委員長、学生部長、就職部長などの要職を歴任され、本学における管理運営においても重要な役割を果たされました。

学外におきましても、薬学領域のみならず、幅広い研究分野の発展にご尽力されました。

この間、先生は長年にわたって、広い視野で学生の教

育および研究指導、後進の育成に努められ、多くの優れた研究者、技術者などを学会、産業界に送り出されました。研究面におきましては、微生物学、天然物化学を基盤として薬学領域における研究の発展に寄与されました。現在、先生はヒノキチオールおよびその関連化合物の生物活性に関する研究を精力的に推し進められており、今後の研究活動の展開を期待しております。

稲森善彦先生の多年にわたる御功績を称えとともに、今後の御健勝ならびに益々の御活躍をお祈り致します。





## 教務部長就任の挨拶

教授 松村 靖夫

本年4月より千熊前教務部長の後任として、2年間教務部長を務めることになりました。1年後の平成18年4月には、いよいよ薬学教育6年制がスタートいたします。維新前年ともいふべき時に大変責任の重い職務を担当することになり、身の引き締まる思いであります。

伝統ある本学が教育年限延長に対してどのように対処していくか、さらにどのような卒業生を世に送り出すかは、良くも悪くも日本の薬学の将来に少なからず影響を及ぼしかねないと思われます。教育年限延長問題に絡む重大な懸案事項として4年制学科の扱いについて長らく議論されてきました。ご存じの通り、旧帝大をはじめとした多くの国公立大学薬学部では、6年制学科とともに4年制学科を併置し、特に4年制学科ではこれまで通り大学院修士課程への進学ルートを確認することを決定しています。薬学部出身者の進路が多方面にわたるというのがその理由の一つですが、それ以上に国公立大学薬学部における研究活動を衰退させないためとも考えられます。一方、私学では新設薬学部を含めて、かなりの大学が6年制学科に統一する模様です。本学では、3月末の拡大教授会において4年制学科を併置することが決定されました。その是非については賛否両論があるのは当然です

が、決定された限りは教職員が一丸となって、新教育制度に取り組む姿勢が望まれるところであります。

本学は昨年、創立100周年を迎えました。記念式典・祝賀会では教員並びに職員一同が次の100年における更なる発展を目指して気持ちを新たにしたところでありませす。と申しまして、本邦における薬学の前途や本学を取り巻く環境は決して洋々たるものではありません。大学受験者人口の減少に加えて、無節操な薬学部新設が相次いでいます。この数年にわたって増え続けていました本学入学志願者数も本年は約20%の減少となっています。本学においては、学生だけでなく教員もが古き伝統に守られながら大禍なく過ごしてきた感があります。これまでは何とか無事生き延びてこられたかも知れませんが、今後は良き伝統を生かしつつ、時代のニーズに合った新しい大阪薬科大学を構築しなければ本学の将来はないと言っても過言ではありません。学内では現在、6年制カリキュラム案の完成も間近となっています。当然、臨床薬学領域を含めた教員の新規採用をはじめとした教員スタッフの増員・充実はもっとも重要かつ緊急の課題であります。今のこの危機的状況をあえて活用しながら、新しい大阪薬科大学の教育体制を整備すべく、微力ながら貢献したいと考えています。教員・職員の皆様方には何卒宜しく御協力くださいますようお願い申し上げます。



## 学生部長就任の挨拶

教授 木村 捷二郎

平成17年4月1日付で学生部長に就任致しました。よろしく申し上げます。昨年は、本学創立100周年の記念すべき年でした。今春の入学式において学長がお話されていたように、私学の中でも創立100年を越える大学はそれほど多くありません。この歴史ある大学をみんなで大切にしたいと思えます。また、松原市から高槻市に移転して以来、9回目の春を迎えました。あの慌ただしく、心身ともに疲れ果て、大変だった移転作業から、ほぼ一昔経過し、「光陰矢の如し」のとおりです。

“学生部長”、私の学生時代を振り返ると、当時、本学では、藤峰徹定先生が就任されていました。先生は、左手を後ろに回して背筋をピンと伸ばし、右手で黒縁のメガネに触れながら、「私が学生部長の藤峰です。学生諸君には、遠慮せずに部長室まで来てください。講義科目は“哲学”です」新入生の目には、「哲学って何？少々怖そう」と写った。入学式とガイダンスが終了し、講義開始後、1週間も経つと、遅刻者がぼつぼつ始まり、また、講義終了間際には、後方の扉から、こそこそ抜ける学生が出てくる。学生の方は「うまくやった」と思っても、それがばれて、翌日、部長室へ呼び出され、「諸君はこの大学に何をしに来るか！20歳にもなる人間のすることか！」と大きな雷が落ちる。ちょび髭が一見、ヒットラ一風でもあり、新入生にとってはホントに「恐ろしい」存在でもあった。

「徹定先生に限らず、当時の親父は本当に怖かった！特に、心に弱みがあると…恐ろしさが倍化する」。最近の小・中学校では、頭をゴツンとやると、父母が飛んでく

るといふ。大学生に向かってゴツンはないと思うが、叱り方によっては、育友会の方々からブーイングか、それとも「もっと厳しく！」か？でも、この際、「徹定先生方式でいくか…」とも思案中である。幸い、学生部の委員の先生方にも「怖そうな先生」がおられるし、また、はっきり叱ってくれる先生の方がいつまでも記憶に残ることもある。「チョット締めていくか」

今のところ、連休明けの「五月祭」での一気飲みによる急性アルコール中毒が少し心配である。学生諸君からは気が付かないと思うが、一気飲みは決して「カッコいいものではない」。年長者から見ると「飲むも、飲まされるも、何とバカな！」と見える。救急車で運ばれる本人も苦しいが、家族にとっても突然の心労である。ひどいときには死亡に至る。この場合は、殺人でもある。「心しよう。適量のお酒を、ゆっくりと楽しんで…」先輩達はその見本を見せてほしい。一方、この春、勉強勉強の受験生活が終了した新入生、忙しい薬学勉強途中の上級生、ともに、新春のお祭りで楽しみ、部活や学友会行事で青春を謳歌してほしい。進級、卒業、薬剤師国家試験合格のほか、4年の間に、もう1つぐらい何かやれる。個々にそれを見つけて実行してみよう。

ご父母、教職員の皆様には「釈迦に説法」ですが、国内外での社会の構造や組織が大きく変化し、個人の価値観も多様に変りつつあります。また、社会や家庭教育の是非が問われる中、協調性が欠如した、または、集団の中に一歩踏み出せない若者が増えています。そのような学生を含めてどう対処するか、微力ですが、私なりに学生達と悩み、話し合い、支援したいと思えます。2年間よろしくお願い致します。

# 新教育制度への対応について

学長 矢内原 千鶴子

平成16年5月の学校教育法の一部改正により、平成18年4月より薬学を履修する課程のうち、臨床に係る実践的な能力を培うことを主な目的とするものの修業年限が6年と定められることになりました。一方、薬学の多様な分野に進む人材の育成のため、4年制課程の設置も認められました。これに伴い、平成18年4月を実施期日とする大学設置基準の改正の内容の詳細が、平成16年11月文部科学省より明らかにされました。6年制課程の設置に伴う新しい設置基準に適合するための大学内の整備は、平成17年度中の認可申請、届け出等の手続きのために、極めて短い限られた時間内に多くの事を準備・実行しなければならないということで、本学でも追い立てられるような切迫した状態の中で作業が進められているのが現状であります。

既にいくつかのメディアで報道されているように、私学の薬系大学では多くが薬学部を6年制課程のみとすると言われていました。大阪薬科大学にとっても薬学部の4年制課程を設置するか否かが、まず最初に決定しなければならない重要な問題でありました。平成16年10月頃より助手も含めた全教員からなる教員協議会の場での質疑応答、討議をはじめとして全学的な検討が積極的に続けられ、本年3月最終的に拡大教授会において4年制課程の併置を望むとの結論が出されました。次いで理事会においてこれが承認され、本学では6年制課程に加えて4年制課程を併置することが決定されました。4年制課程については一般に種々広く論じられてきたところであり、先にも述べたように、また中央教育審議会答申にもみられるように、薬学出身者の進路の多様性に基づく人材の育成が期待されることが根拠であるのは言うまでもありません。さらに、本学では長い歴史の中で育み、着実にその成果を挙げてきた薬学系基礎教育を更に充実したものとし、これを大学院博士課程（前期・後期）での教育・研究へと連繫し、学術的教育・研究の場として本学ならではの“大学”の基盤を確たるものとしていかねばならないとの思いも強くするところでもあります。そして、これがまた、薬剤師養成教育を主たる目的とする6年制課程の教育の新しい学問的基盤の形成へと繋がり、本学における6年制課程の教育の特異性を育てることになるものと期待しています。幸いにもこうしたことは、本学のような伝統校においてこそ可能であると言えます。また、この伝統を受け継ぐ中心となる教育・研究の後継者の育成も本学にとっては最重要の課題の一つであり、そのためにも4年制課程とそれに基づく大学院課程の存続は欠くことのできないものと考えられます。6年制課程のみの場合と異なり、4年制課程併置に伴う種々の問題点については学内でも多くの議論がありましたが、併

置の最終結論が出た以上、それら問題点の解決に向けての計画的、戦略的な解決への努力と成功を期す情熱が求められています。

新教育制度への対応として更に重要なものに新カリキュラムの編成があります。本学では既に新制度の施行を見越し、現4年制学生の教育と新6年制のもとでの学生の受ける教育の間の乖離を最小限にとどめるべく、平成14年8月に提出された日本薬学会モデルコア・カリキュラムに則り、平成14年秋よりカリキュラム委員会を中心にカリキュラムの再編成作業を開始し、平成16年度、平成17年度入学生にその新カリキュラムを適用してきました。今回受けた大学認証評価の報告書の中でも“新薬学教育制度施行を踏まえた広い視野でのカリキュラム編成”として評価されたところであります。現在、新6年制課程のためのカリキュラムの本格的な編成作業もほぼ終了し、併置する4年制課程のそれを検討中であります。

本学の薬剤師養成教育については、既に20年にわたる長期（3ヵ月）病院実務実習の実施、全国に先駆けての附属薬局の開設、いち早い公開教育講座の開講など新機軸の構想のもと次々と実行されてきた実績があります。薬剤師としての実践的教育については、こうした実績の上にとって更なる充実を目指さねばならないことは言うまでもありません。

新制度下では、薬剤師の実務の経験を有する実務家教員の採用が義務づけられ、薬剤師養成教育に大きな力となることと期待されています。しかし、あくまで一般論としてではありますが、特に新設校の乱立に伴う教員の需要増によるその質の確保が危ぶまれ、入学定員の著しい増加に伴う薬学生の質の低下のみならず、薬学教育そのものの質の低下に連がりかねないのではないかと案じられます。本学でも収容人数増に伴う専任教員数の充足が大きな課題であります。既設校には教員組織や施設・設備の整備は段階的に行うことが認められてはおりますが、その計画は前もって提示しなければならず、極めて限られた時間内に終えなければならないそれらの作業は、日常的教育・研究活動に相当の負担となっていることも否めません。しかし、本学においては、あくまで従来からの教員選考基準を遵守しつつ、人材の確保に努め、新制度のもとで教育・研究の大きな飛躍を期待しています。

いずれにしても、新薬学教育制度施行に伴う改正大学設置基準への適合へ向けての種々の整備作業にのみ追われる日々の中で、大学全体が新しい薬学教育維新の夜明けに、その未来への構想をじっくりとあたため練り上げ新制度の出発に備えるための時間的余裕がない現状が、極めて残念でなりません。



## 創立百周年記念募金事業を終えて(御報告と御礼)

創立百周年記念募金事業委員長 理事長 川島 康生

平成17年3月31日をもって本学創立百周年記念の募金事業を無事終了することができました。ご協力頂いた関係各位に衷心より御礼を申し上げます。

数々の記念事業に加え、本学の懸案でもありました「教育奨学基金の創設」を中心に、「国際交流基金の創設」と「資料室の整備・充実」を目指し、1億5千万円の目標を掲げて募金事業を開始したのは、1昨年の4月のことでした。世は不況のまっ只中、同窓会員各位には本学の移転に際して多大の御協力を頂いた後でもあり、「あまり大きな目標は」と言う声もありましたが、「目標は高く」と設定されました。それにも拘わらず目標の90%を超える募金を成就できましたことは、募金委員長としては満額に至らなかった非力を咎められるかもしれませんが、多くのご協力の賜と感謝しているところで

す。「資料室の整備・充実」に1,000万円を投じ、他を募金委員会に諮って「教育奨学基金」に8,500万円、「国際交流基金」に3,500万円を配分いたしました。目標の不足部分については経緯を見て法人としても考えていかなければならないと思っていますところ

です。資料室につきましては、その運用方法について現在検討して頂いております。職員の多くはすでに足を運んで頂いたものと思いますが、今後は在学生が一人残らず訪れて本学の歴史について知ってくれることを期待しています。また同窓会の皆さんが昔を懐かしむよすがとなればこれまた幸いです。現在は有志の方々から貴重な資料を拝借して展示していますが、多くの同窓会員がこれに応じて本学の歴史をたどる資料をお寄せくださるようお願い

いたします。「教育奨学基金」につきましては、既にその運用規程も定められ、奨学金の給付あるいは貸与が始められてい

ます。本邦ではどちらかというと官学を中心に大学教育が進められ、そのためもあってか日本育英会（現日本学生支援機構）の如く全国画一の奨学金制度が作られました。しかし私学には多様な奨学金制度があって然るべきであると考えます。本学でも現在のところ百周年記念で集められた基金をもとに法人として一律の奨学金制度にしていますが、個人的な考えとしては将来は欧米の私立大学に見られるような、個人的な寄付金をもとにしてその人の名を付けた小規模の奨学金制度などが生まれてもよいのではないかと考えています。本邦では大学を出るまでは親が面倒を見るのが常識となっているため、教育費がかさむと子供の数を抑えなければならなくなり、少子化を助長しています。欧米の多くの国のように、大学へは学生が自ら稼いだ学費や奨学金で進むのが普通になれば少子化対策にもなるのではないのでしょうか。今回の基金はあくまでもその端緒を開いたものであると考えています。今後、本学関係者の後輩への思いが引き継がれてこの基金が大きくなっていくことを期待しています。

一方、「国際交流基金」は矢内原学長の肝煎りで創設されたものです。今や学問に国境のないことは言うまでもありません。国際化のできない大学は今後の競争に勝ち残れないことも明らかです。これほどの基金で何程のことができるかと言われそうですが、これも実績を積み上げることによってさらに基金を増やしていけるのではと考えています。

夢は広がりますが、目前に迫った薬学修業年限延長問題もこれらの基金の使途と無関係ではありません。将来を見据えて現下の問題をしっかりと解決していかねばならないと思います。全学の皆さんの一層のご努力に期待しています。



資料室

# 創立百周年記念募金事業の終了について

## 創立百周年記念事業募金委員会

募金目標額1億5千万円を掲げて、平成15年4月から開始しました創立百周年記念募金事業は平成17年3月末で終了しました。募金総額は1億3,627万6千円で、その達成率は約91%です。本募金事業にご協力賜りました、多数の企業、同窓会、育友会、本学関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

(目標額 15,000万円、達成率91%)

| 募 金 区 分 |                      | 目標額(万円)                 |
|---------|----------------------|-------------------------|
| (法人)    |                      | 7,163.0                 |
| (個人)    |                      | 7,025.6                 |
| 個人の内訳   | 同窓会                  | (**) 4,395.1            |
|         | 育友会                  | 1,412.5                 |
|         | 理事・監事・評議員<br>教職員・旧職員 | 1,218.0                 |
| 合 計     |                      | (※14,188.6)<br>13,627.6 |

(※本学卒業生の理事・評議員、教職員他の寄付金は同窓会の区分でも計上されていますので、実際の寄付金の合計は13,627.6万円です。)

### 募金の使途

|              |            |
|--------------|------------|
| 1. 教育奨学基金の創設 | 8,500.0万円  |
| 2. 国際交流基金の創設 | 3,627.6万円  |
| 3. 資料室の整備・充実 | 1,000.0万円  |
| 4. 学歌碑の建立    | 500.0万円    |
| 計            | 13,627.6万円 |

(\*\*) 同窓会から、その他の創立百周年記念事業を行うために、別途2,000万円を大学にご寄付いただきました。

## 新入生交流・導入教育

学生部長 木村 捷二郎

平成17年度の新入生を迎えるにあたって、教務部を交えて新入生交流・導入教育のあり方を相談したが、今一つ、これと思う方法が見出せず、とりあえず昨年どおりとなった。すでに、いくつかのアドバイザーグループでは、5月のゴールデンウィーク前に会食、ハイキングなどの交流・導入教育を実施して頂いたと聞いている。1学年300余名の学生が団体で出かける場合、「どこへ集合?」「交通手段は?」、「当地で何をする?」などに悩まされ、名案が浮かばない。アドバイザー単位での計画・実行なら、個々の学生の希望も聞け、場合によっては、大学院学生や4年次生など上級生の参加も期待でき、小回りが利くなどのメリットも多い。薬学教育6年制の学生が入学してくる明年に向けて、考えてみたい。妙案、提案を期待したい。参考として、昨年、実施された主な企画内容やアンケートの結果は、以下のとおりである。

|                             |                          |
|-----------------------------|--------------------------|
| ○企画内容の順位                    | 2) 新しい友人が増えた             |
| 1位 会食 22                    | 3) 料理が美味しかった             |
| 2位 会食・ボーリング 5               | 4) 先生や先輩から助言が得られた        |
| 3位 会食・野球(または、水族館) 4         | 5) 無料でご飯を食べられた           |
| 4位 会食・見学 3                  | 6) 交流する機会が出来た            |
| 5位 テーマパーク(ユニバーサルスタジオジャパン) 2 | 7) 楽しかった                 |
| 5位 パーベキュー(森林センター、ハイキング) 2   |                          |
| 7位 生活指導 1                   | ○今後も交流・導入教育を続けるべきだと思いますか |
|                             | 1) 続けるべきである 151          |
| ○学生から、参加して良かった点についての主な回答    | 2) 止めるべきである 7            |
| 1) 同じアドバイザーの学生や先生と話せた       | 3) どちらでもよい 90            |

# 平成16年度進路・就職状況について

就職部長 田中 一彦

今春卒業した学部学生（52期生）236名（男75名・女161名）の進路・就職状況は（表1）に示す通り、薬剤師国家試験合格後に進路を決定する者を除き、ほぼ100%の進路・就職決定率となっています。薬学生の就職状況は行政の流れ、景気の動向を受けて日々大きく変化しています。本学では急変する就職動向に的確かつ迅速に対応するために、質の向上・量の拡大を図るとともに、学生全員に対する「個別指導」に力を注いできました。その結果、学生が自らの進路について、早くから考え行動するようになり、進路先の決定も学生主導でなされるようになってきています。本年度の就職状況は次のように2つの大きな特徴があります。特徴1としては、大学院進学者の大幅増加が挙げられます。これは平成18年度より施行される薬学教育6年制（修業年限延長）の決定が大きく影響しており、本年度大学院進学者は33.1%（前年28.6%）となっています。特徴2としては、公務員への就職者が増加したことです。就職先としては、厚生労働省（麻薬取締官）、京都市、大阪市、滋賀県、島根県、独立行政法人国立病院機構（国立循環器病センター、京都医療センター）など、多岐に渡っています。これは、全学年を対象とした「公務員試験対策講座」が学生の公務員への就職活動に役立っていることをアンケート等で確認しています（第1回目：約240名/第2回目：約130名参加）。

他の職種についても特徴を記します。

## (1) 薬局

当職種への就職率は17.8%（前年27.5%）と9.7%の減少となりました。医薬分業の進展で保険薬局、調剤併設型ドラッグストアの増設は、関西地区を中心に現在も拡大傾向にあります。求人数は平成14年度の532件をピークに一昨年、昨年と減少し、本年度は441件でした。今後、薬科大学の新増設に伴う薬剤師増加とともに、求人数は毎年減少してくると予測しています。

(表1)

平成16年度 学部卒業生(52期生)進路・就職状況

(平成17年3月31日現在)

| 区分                | 男    | %      | 女     | %      | 計    | %      |       |
|-------------------|------|--------|-------|--------|------|--------|-------|
| 薬局                | 15   | 20.0%  | 27    | 16.8%  | 42   | 17.8%  |       |
| 病院・診療所            | 2    | 2.7%   | 32    | 19.9%  | 34   | 14.4%  |       |
| 病院研修生             | 2    | 2.7%   | 15    | 9.3%   | 17   | 7.2%   |       |
| 薬業関連企業            | (MR) | 9      | 12.0% | 15     | 9.3% | 24     | 10.2% |
|                   | (内勤) | 2      | 2.7%  | 9      | 5.6% | 11     | 4.7%  |
| 公務員・教職員           | 2    | 2.7%   | 12    | 7.5%   | 14   | 5.9%   |       |
| 大学院進学<br>(博士前期課程) | 35   | 46.7%  | 43    | 26.7%  | 78   | 33.1%  |       |
| その他               | 8    | 10.7%  | 8     | 5.0%   | 16   | 6.8%   |       |
| 計                 | 75   | 100.0% | 161   | 100.0% | 236  | 100.0% |       |

## (2) 病院・診療所および病院研修生

病院・診療所における就職率は14.4%（前年11.0%）、病院研修生は7.2%（前年5.9%）となり、病院および研修生の領域では4.7%増加しました。病院からの求人数は年々増加し、昨年度は690件で過去最高となりました。求人先を分析しますと、199床以下の病院が大半を占めており、学生が希望する各地の基幹病院では依然欠員募集が続いています。

## (3) 薬業関連企業

当領域への就職は、MR・内勤あわせて14.9%（前年18.0%）で3.1%の減少でした。MRインターンシップの拡大や領域別ガイダンスでの卒業生による講演等により、学生の企業に対する理解も深まってきたので、新年度以降は拡大していくことを期待しています。特に平成17年4月1日から始まった改正薬事法（製造承認→製造販売承認）により、医薬品製造受託企業からの品質管理者等への求人も増加傾向にあり、当領域への情報収集、情報開示の質・量の拡大に努めています。

## (4) その他

未定の15名は、薬剤師免許取得後にそれを必要とする職種（例：病院、保険薬局等）への就職を決めようとする者であり、免許取得後には全員就職が決定しています。

なお、大学院修了生56名（男28名・女28名）の進路・就職状況は（表2）の如く100%の就職率となっています。大学院修了生の就職は、薬業関連企業が64.3%（前年70.6%）と最も多くなっています。これは、研究、学術、開発等の内勤職の増加が大きな特徴です。本年4月からの改正薬事法（製造承認から製造販売承認へ）の施行もあり、今後もこの傾向は続くと思料しています。

(表3)として、平成16年度学部卒業生（52期生）の進路・就職先、(表4)として平成16年度大学院博士前期（修士）課程修了生（29期生）の進路・就職先を整理しています。

(表2)

平成16年度 大学院博士前期(修士)課程修了生(29期生)進路・就職状況

(平成17年3月31日現在)

| 区分                | 男    | %      | 女     | %      | 計     | %      |       |
|-------------------|------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|
| 薬局                | 1    | 3.6%   | 3     | 10.7%  | 4     | 7.1%   |       |
| 病院・診療所            | 4    | 14.3%  | 5     | 17.9%  | 9     | 16.1%  |       |
| 病院研修生             | 1    | 3.6%   |       |        | 1     | 1.8%   |       |
| 薬業関連企業            | (MR) | 1      | 3.6%  | 1      | 3.6%  | 2      | 3.6%  |
|                   | (内勤) | 19     | 67.9% | 15     | 53.6% | 34     | 60.7% |
| 公務員・教職員           |      |        | 2     | 7.1%   | 2     | 3.6%   |       |
| 大学院進学<br>(博士後期課程) | 2    | 7.1%   | 1     | 3.6%   | 3     | 5.6%   |       |
| その他               |      |        | 1     | 3.6%   | 1     | 1.8%   |       |
| 計                 | 28   | 100.0% | 28    | 100.0% | 56    | 100.0% |       |

(表3)

## 平成16年度 学部卒業生(52期生)の進路・就職先

| ■公務員・教職員         |    | ■病院研修生          |    |
|------------------|----|-----------------|----|
| 厚生労働省(麻薬取締官)     | 1  | 三豊総合病院(香川県)     | 1  |
| 滋賀県              | 1  | 国立循環器病センター(非常勤) | 1  |
| 島根県              | 1  | 大阪南医療センター(非常勤)  | 1  |
| 大阪市              | 1  | 京都医療センター(非常勤)   | 1  |
| 京都市              | 3  | 四国がんセンター(非常勤)   | 1  |
| 榛原町立 榛原総合病院(奈良県) | 1  |                 |    |
| 国保 橋本市民病院(和歌山県)  | 1  | 計               | 14 |
| ■病院研修生           |    | ■病院研修生          |    |
|                  |    | 大阪大学医学部附属病院     | 12 |
|                  |    | 大阪大学歯学部附属病院     | 1  |
|                  |    | 京都大学医学部附属病院     | 3  |
|                  |    | 三重大学医学部附属病院     | 1  |
|                  |    | 計               | 17 |
| ■薬業関連企業・その他      |    |                 |    |
| アポットジャパン         | 1  | シミック            | 1  |
| イーピーエス           | 1  | 住友製薬            | 1  |
| 大塚製薬             | 1  | 第一製薬            | 1  |
| 杏林製薬             | 2  | 大日本製薬           | 1  |
| 協和発酵工業           | 1  | 武田薬品工業          | 5  |
| クラヤ三星堂           | 1  | 中外製薬            | 1  |
| 沢井製薬             | 1  | 帝国臓器製薬          | 1  |
| 塩野義製薬            | 5  | 東和薬品            | 1  |
|                  |    | 日本イーライリリー       | 1  |
|                  |    | 日本ベーリンガーインゲルハイム | 1  |
|                  |    | ノバルティスファーマ      | 1  |
|                  |    | バイエル薬品          | 1  |
|                  |    | 万有製薬            | 1  |
|                  |    | 富士バイオメディクス(SMO) | 1  |
|                  |    | 伏見製薬所           | 1  |
|                  |    | ベルシステム24        | 1  |
|                  |    | 三菱ウェルファーマ       | 1  |
|                  |    | ロート製薬           | 1  |
|                  |    | 計               | 35 |
| ■病院              |    |                 |    |
| 愛生会山科病院(京都市)     | 1  | 岸和田徳洲会病院(岸和田市)  | 2  |
| 浅香山病院(堺市)        | 1  | (医)協和会(兵庫県)     | 1  |
| あさぎり病院(兵庫県)      | 1  | 久藤総合病院(石川県)     | 1  |
| 育和会記念病院(大阪市)     | 1  | 倉敷中央病院(岡山県)     | 1  |
| 宇治徳洲会病院(京都府)     | 2  | 光生会病院(愛知県)      | 1  |
| 岡山済生会総合病院(岡山市)   | 1  | シミズ病院(京都市)      | 1  |
| 梶川病院(広島市)        | 1  | 住友病院(大阪市)       | 1  |
| 神崎中央病院(滋賀県)      | 1  | セントラル病院(広島県)    | 1  |
|                  |    | 蘇生会総合病院(京都市)    | 1  |
|                  |    | 田北病院(奈良県)       | 1  |
|                  |    | 豊郷病院(滋賀県)       | 1  |
|                  |    | 長浜赤十字病院(滋賀県)    | 1  |
|                  |    | 早石病院(大阪市)       | 1  |
|                  |    | 平成記念病院(奈良県)     | 1  |
|                  |    | 北摂総合病院(高槻市)     | 2  |
|                  |    | 舞鶴赤十字病院(京都府)    | 1  |
|                  |    | 計               | 34 |
| ■薬局・小売           |    |                 |    |
| アインファーマシーズ       | 1  | オーバス            | 3  |
| 旭(東大阪市)          | 1  | 回生薬局(佐賀県)       | 1  |
| アベックス(大阪市)       | 1  | キリン堂            | 1  |
| アルカ              | 1  | 幸和ドラッグ          | 2  |
| イオン              | 2  | コクミン            | 1  |
| 育星会              | 1  | ジップ・ホールディングス    | 2  |
|                  |    | 仁生堂(東京都)        | 1  |
|                  |    | スギ薬局            | 6  |
|                  |    | セガミメディクス        | 1  |
|                  |    | 総合メディカル         | 4  |
|                  |    | たんぼぼ薬局          | 1  |
|                  |    | 日本調剤            | 5  |
|                  |    | 阪神調剤薬局          | 2  |
|                  |    | ファーマライズ         | 2  |
|                  |    | ブラザ薬局(八尾市)      | 1  |
|                  |    | マツモトキヨシ         | 2  |
|                  |    | 計               | 42 |
| ■大学院(博士前期課程)進学   |    | ■その他            |    |
| 大阪薬科大学           | 62 | 自治医科大学          | 1  |
| 大阪市立大学           | 1  | 奈良先端科学技術大学院大学   | 2  |
| 大阪大学             | 3  |                 |    |
| 岡山大学             | 3  |                 |    |
| 九州大学             | 1  |                 |    |
| 京都大学             | 3  |                 |    |
| 神戸大学             | 2  | 計               | 78 |
|                  |    | 全日本空輸<客室乗務員>    | 1  |
|                  |    | 計               | 1  |

(表4)

## 平成16年度 大学院博士前期(修士)課程修了生(29期生)の進路・就職先

| ■公務員・教職員       |   | ■病院研修生          |    |
|----------------|---|-----------------|----|
| 京都市            | 1 | 大阪大学医学部附属病院     | 1  |
| 市立貝塚病院         | 1 | 計               | 1  |
| 計              | 2 |                 |    |
| ■薬業関連企業・その他    |   |                 |    |
| アルフレッサファーマ     | 2 | シミック            | 4  |
| 小野薬品工業         | 2 | スズケン            | 2  |
| 科研製薬           | 1 | セブントゥセブン        | 1  |
| 加美乃素本舗         | 1 | 第一製薬            | 1  |
| クラブコスメチクス      | 1 | 大日本製薬           | 1  |
| 神戸天然物化学        | 1 | 大鵬薬品工業          | 1  |
| 堺化学工業          | 1 | 帝人ファーマ          | 1  |
| 三栄源エフ・エフ・アイ    | 1 | テクノール           | 1  |
| 三和化学研究所        | 1 | 東京CRO           | 2  |
| 塩野義製薬          | 1 | 東邦薬品            | 1  |
|                |   | 計               | 36 |
| ■病院            |   | ■薬局・小売          |    |
| 大阪医科大学附属病院     | 1 | オーバス            | 1  |
| 近畿大学医学部附属病院    | 2 | スギ薬局            | 1  |
| 新古賀病院(福岡県)     | 1 | セントラルメディカル(東京都) | 1  |
| 東天満クリニック       | 1 | 橘薬局             | 1  |
| PL病院           | 1 | 計               | 4  |
| 府中病院           | 1 |                 |    |
| 森本病院           | 1 |                 |    |
| 淀川キリスト教病院      | 1 |                 |    |
| 計              | 9 |                 |    |
| ■大学院(博士後期課程)進学 |   | ■その他            |    |
| 大阪薬科大学         | 3 | その他             | 1  |
| 計              | 3 | 計               | 1  |

# 第90回薬剤師国家試験の結果と今後の方針

薬剤師国家試験対策委員長（平成16年度） 掛見 正郎

第90回薬剤師国家試験の合格者発表が例年より2週間早く4月6日に厚生労働省で行われた。本学の今年度の成績は新卒合格率100%（全国1位）、これは現行の薬剤師国家試験制度になって以来（1996年）全国初の快挙であり、また本学の新卒合格率が全国1位になったのは1995年以来、実に10年ぶりのことである（表1）。これはこの1年間、全学あげて薬剤師国家試験の「成績向上」に取り組んだ成果であり、国家試験対策委員をはじめ関係教職員のご協力と、そして何よりも学生諸君の努力に対し、心から感謝と敬意を表するものである。一方、既卒者を含めた全体合格率は89.78%（全国12位）にとどまり、既卒者の対策が本学の急務であることが浮き彫りにされた国家試験でもあった。以下、昨年度の国家試験対策の反省点と本年度の方針について、本年5月10日に行われた「薬学総合演習オリエンテーション」に沿って述べてみたいと思う。

第90回薬剤師国家試験は3月12日・13日と、これも例年より2週間早く実施された。第1日目の「基礎薬学」は過去問中心の基本的な問題が多く、例年より正答率が3~4%も高い結果となった。一方、「衛生薬学」、「薬事法・制度」は例年並みの難易度で、一部新しい傾向の問題も出題されたが、全般に無難な出題傾向であった。第2日目の「医療薬学」のうち、午前中の薬理学、薬剤学は過去問中心の基本的な問題が多く、難易度も例年並みであった。しかし午後の実学系と薬物治療学は、極めて平易な問題が多く、この数年では最も正答率の高い（75.97%）結果となった。このため全科目の正答率は例年より遙かに高い72.94%となり、現行の国家試験制度では過去最高の正答率となった（表2）。このうち本学学生の成績は、「総合」を含め「衛生薬学」、「薬事法・制度」、「医療薬学」の各科目で全国平均を大きく上回ることとなったが、残念ながら「基礎薬学」が全国平均をわずかに下回り、当初の目的である「本学の成績を少なくとも全国レベルまで引き上げること」を達成することは出来なかった。このことは、これまで極めて成績の悪かった「基礎薬学」が昨年来ようやく回復傾向に転じたものの、まだ定着するには至っていないことを示している。したがって、今年度の重点対策として「基礎薬学」とりわけ有機化学の強化を再び掲げなければならないこととなった。なるべく短時間に効率のよい対策を講じたいと考えている。今回もう一つの問題点は、先に述べた既卒者の合格率である。一昨年から既卒の全受験生を来学させて国家試験対策委員と面談を行い、受験準備状況を報告させている。これによって、大した準備もせず安易に国家試験受験を繰り返してきた過ちを、少しは防止できるものと考えてきた。しかしながら、この程度の対策では、既卒者のモチベーションの向上には

役立っても成績向上には殆ど寄与しなかったことが明らかとなった。これについては現在新しい対策を検討しているので、しばらく見守って頂きたいと思う。

以上、第90回薬剤師国家試験の結果について一部現状分析を交えながら述べてきたが、これら結果を踏まえて今後の目標について述べなければならない。本学は言うまでもなく薬学教育機関であり、その使命の一つとして「薬剤師養成」を掲げている。したがって、少なくとも薬剤師国家試験合格者を90%以上に保つことは、私たち薬学教員の最低限の義務と考えている。この点からすると、この10年間にたった3回しかこの義務を果たしてこなかったという事実（図1）を真摯に受け止めなければならない。このため本年度も、「新卒合格率90%以上」と、「全科目の正答率が全国平均値を上回る」ことを最低限の目標にして国家試験対策を考えることとしたい。具体的な対策は、以下の通りである。

## [基本方針]

1. 本学学生の国家試験の成績を全国レベルに保つこと。
2. 国家試験対策／薬学総合演習は、本学教員があくまでも主体となって行い、予備校等の外部講師とも協力して、効率的に授業を進めること。
3. 授業には、目標、方略の具体的提示と、学生の学習到達度の評価を徹底して行い、その学習到達度別クラス編成を行って、学生の能力に合った授業を進めること。
4. 国家試験対策／薬学総合演習は、短期間に集中して効率よく行うため、主として後期のみを実施すること。
5. 5回の総合試験と、全国統一模擬試験を、国家試験の様式（各2日間）に準じて実施し、その結果を公表して学生の弱点克服に活用すること。
6. 薬学総合演習の単位認定は、2月に連続で2回実施する正規試験で評価するが、その基準は「第91回薬剤師国家試験に合格するレベルに到達している」かどうかで判断すること。
7. 既卒者に対して、昨年以上に積極的な対策をとり、受験する以上は全員合格を目指すこと。
8. 卒業留年学生には、昨年以上にきめ細かな特別措置を行い、これら学生の国家試験全員合格を目指すこと。

本年度もいくら「最適な」国家試験対策が実施されようと、結果がついてこなければ何の意味もないことは十分承知している。より良い成果に向かって私たち国家試験対策委員会は最善を尽くしたいと考えているので、関係教職員のご協力をお願い申し上げる次第である。来年度の学報には、更により報告が出来るよう祈念している。

(表1)

## 最近4年間の新卒国家試験成績

| 区分             |     | 受験者<br>(人) | 合格者<br>(人) | 合格率<br>(%) | 新卒<br>全国平均                 |
|----------------|-----|------------|------------|------------|----------------------------|
| 第90回<br>(H.17) | Y   | 29         | 29         | 100.00%    | 93.29%<br>(94.20%)<br>全国1位 |
|                | 男女  | 109        | 109        | 100.00%    |                            |
|                | 計   | 138        | 138        | 100.00%    |                            |
|                | S   | 45         | 45         | 100.00%    |                            |
|                | 男女  | 52         | 52         | 100.00%    |                            |
| 計              | 97  | 97         | 100.00%    |            |                            |
| 総数             | 235 | 235        | 100.00%    |            |                            |
| 第89回<br>(H.16) | Y   | 41         | 41         | 100.00%    | 86.42%<br>(86.97%)<br>全国4位 |
|                | 男女  | 122        | 118        | 96.72%     |                            |
|                | 計   | 163        | 159        | 97.55%     |                            |
|                | S   | 30         | 28         | 93.33%     |                            |
|                | 男女  | 62         | 54         | 87.10%     |                            |
| 計              | 92  | 82         | 89.13%     |            |                            |
| 総数             | 255 | 241        | 94.51%     |            |                            |

| 区分             |     | 受験者<br>(人) | 合格者<br>(人) | 合格率<br>(%) | 新卒<br>全国平均                  |
|----------------|-----|------------|------------|------------|-----------------------------|
| 第88回<br>(H.15) | Y   | 38         | 30         | 78.95%     | 88.52%<br>(89.17%)<br>全国33位 |
|                | 男女  | 120        | 108        | 90.00%     |                             |
|                | 計   | 158        | 138        | 87.34%     |                             |
|                | S   | 52         | 44         | 84.62%     |                             |
|                | 男女  | 74         | 57         | 77.03%     |                             |
| 計              | 126 | 101        | 80.16%     |            |                             |
| 総数             | 284 | 239        | 84.15%     |            |                             |
| 第87回<br>(H.14) | Y   | 40         | 34         | 85.00%     | 88.59%<br>(89.12%)<br>全国35位 |
|                | 男女  | 101        | 90         | 89.11%     |                             |
|                | 計   | 141        | 124        | 87.94%     |                             |
|                | S   | 62         | 44         | 70.97%     |                             |
|                | 男女  | 96         | 86         | 89.58%     |                             |
| 計              | 158 | 130        | 82.28%     |            |                             |
| 総数             | 299 | 254        | 84.95%     |            |                             |

(表2)

## 最近4年間の薬剤師国家試験 科目別・換算点の推移

## 第90回薬剤師国家試験 (平成17年)

|               |     | 受験者    | 平均点   | 基礎薬学  | 衛生薬学  | 薬事法規  | 医療薬学  |
|---------------|-----|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 全国<br>(A)     | 合計  | 11,590 | 72.94 | 67.62 | 69.76 | 77.13 | 75.97 |
|               | 新卒  | 8,626  | 75.76 | 70.66 | 72.08 | 78.63 | 79.06 |
|               | その他 | 2,964  | 64.74 | 58.74 | 63.01 | 72.8  | 66.98 |
| 本学<br>(B)     | 合計  | 323    | 73.97 | 67    | 71.35 | 79.43 | 77.42 |
|               | 新卒  | 235    | 77.16 | 70.31 | 74    | 81.8  | 80.87 |
|               | その他 | 88     | 65.44 | 58.14 | 64.26 | 73.08 | 68.20 |
| 差異<br>(B)-(A) | 合計  |        | 1.03  | -0.62 | 1.59  | 2.3   | 1.45  |
|               | 新卒  |        | 1.4   | -0.35 | 1.93  | 3.18  | 1.81  |
|               | その他 |        | 0.7   | -0.6  | 1.25  | 0.28  | 1.22  |

## 第88回薬剤師国家試験 (平成15年)

|               |     | 受験者    | 平均点   | 基礎薬学  | 衛生薬学  | 薬事法規  | 医療薬学  |
|---------------|-----|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 全国<br>(A)     | 合計  | 10,850 | 70.46 | 64.73 | 69.59 | 76.57 | 72.60 |
|               | 新卒  | 8,345  | 72.55 | 67    | 71.16 | 77.78 | 74.91 |
|               | その他 | 2,505  | 63.51 | 57.16 | 64.37 | 72.54 | 64.90 |
| 本学<br>(B)     | 合計  | 402    | 68.71 | 62.46 | 69.4  | 74.74 | 70.59 |
|               | 新卒  | 284    | 70.88 | 64.74 | 71.51 | 75.83 | 72.92 |
|               | その他 | 118    | 63.47 | 56.98 | 64.34 | 72.12 | 64.99 |
| 差異<br>(B)-(A) | 合計  |        | -1.75 | -2.27 | -0.19 | -1.83 | -2.01 |
|               | 新卒  |        | -1.67 | -2.26 | 0.35  | -1.95 | -1.99 |
|               | その他 |        | -0.04 | -0.18 | -0.03 | -0.42 | 0.09  |

## 第89回薬剤師国家試験 (平成16年)

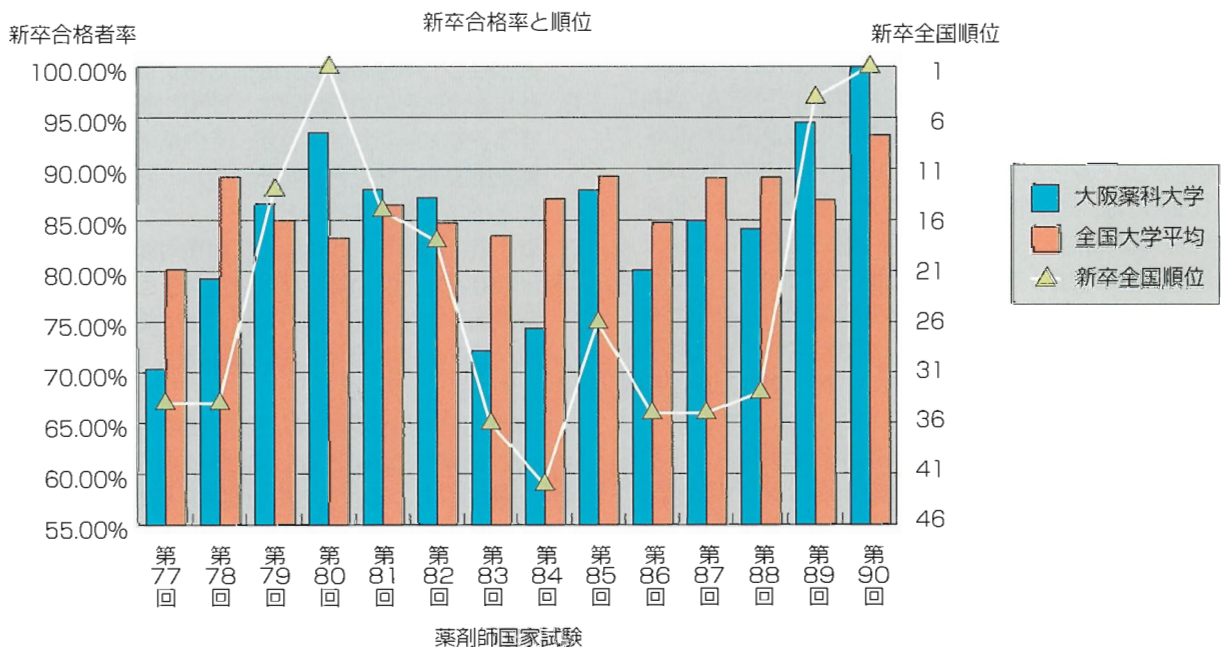
|               |     | 受験者    | 平均点   | 基礎薬学  | 衛生薬学  | 薬事法規  | 医療薬学  |
|---------------|-----|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 全国<br>(A)     | 合計  | 11,048 | 69.5  | 60.41 | 74.36 | 69.09 | 72.50 |
|               | 新卒  | 8,504  | 71.63 | 62.64 | 76.26 | 70.89 | 74.71 |
|               | その他 | 2,544  | 62.39 | 52.98 | 67.98 | 63.08 | 65.11 |
| 本学<br>(B)     | 合計  | 364    | 70.48 | 60.54 | 76.22 | 70.1  | 73.61 |
|               | 新卒  | 255    | 72.75 | 63.27 | 78.64 | 71.31 | 75.77 |
|               | その他 | 109    | 65.18 | 54.14 | 70.57 | 67.25 | 68.56 |
| 差異<br>(B)-(A) | 合計  |        | 0.98  | 0.13  | 1.86  | 1.01  | 1.11  |
|               | 新卒  |        | 1.12  | 0.63  | 2.38  | 0.42  | 1.06  |
|               | その他 |        | 2.79  | 1.16  | 2.59  | 4.17  | 3.45  |

## 第87回薬剤師国家試験 (平成14年)

|               |     | 受験者    | 平均点   | 基礎薬学  | 衛生薬学  | 薬事法規  | 医療薬学  |
|---------------|-----|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 全国<br>(A)     | 合計  | 11,148 | 68.43 | 63.12 | 63.46 | 80.93 | 70.65 |
|               | 新卒  | 8,367  | 70.45 | 65.31 | 65.41 | 82.53 | 72.69 |
|               | その他 | 2,781  | 62.34 | 56.53 | 57.59 | 76.11 | 64.53 |
| 本学<br>(B)     | 合計  | 424    | 66.59 | 60.55 | 62.1  | 80.26 | 68.82 |
|               | 新卒  | 299    | 69.18 | 63.02 | 64.61 | 82.54 | 71.56 |
|               | その他 | 125    | 60.37 | 54.64 | 56.12 | 74.3  | 62.25 |
| 差異<br>(B)-(A) | 合計  |        | -1.84 | -2.57 | -1.36 | -0.67 | -1.83 |
|               | 新卒  |        | -1.27 | -2.29 | -0.8  | 0.01  | -1.13 |
|               | その他 |        | -1.97 | -1.89 | -1.47 | -1.31 | -2.28 |

(図1)

## 本学の新卒合格率および順位と全国平均合格率の比較



< '時' について >

年が改まったり、年度が変わったりすると、生活そのものはそれほど変化するわけではないのに、新たな気持ちで頑張ろうという気になります。学校というところは特にそれを感じさせてくれます。学生相談室に居る私も、4月になると、今年はどうな学生さんに出会えるだろうか…、ここをもっと利用されやすい部屋にしたいなあ…などと、変わらない時間と場所の中にも新しいものを見出ししていきたいくなります。

私たちは時計や暦に合わせて生活をしています。朝どんなに眠くても時間になれば起きなければいけません。勝手に夏休みを早めるわけにもいきません。人と会うときは、時間を約束します。遠くへ出かけるときは電車やバスの時刻を調べます。国によっては30分や1時間の遅れは全く意に介さないという所もあるようですが、忙しい日本では、5分でも遅れると困ることがあります。時計や暦は、人が集団で生活するためには必要不可欠かつ便利なものなのです。

けれども一方で、お昼ごはんは12時と決められていても、人間の身体は12時になったらお腹が空く、というようにはなっていません。20歳になると成人式をして大人の仲間入りをしますが、20歳になったとたんに大人の考え方になるというわけでもありません。お腹が空く時間も、大人になる時期も人それぞれなのですが、ただ、集団生活の便宜上、そう決められているのです。

なのでこれにあまりに縛られすぎると、生きることがとても窮屈になります。

人はそれぞれに自分の中に '時' を持っています。それは外の時計や暦とは必ずしも一致しません。壁に掛かった時計ばかりではなく、自分の中にある時計にも注意を向けてみてください。何か困難にぶつかるということは、自分の中の時計は今そういう '時' を指しているのかもしれませんが。そう考えると、今ぶつかっている困難も、なるほどと腑に落ちる面もあるのではないのでしょうか。 '時' が来ているということは、今がその問題に取り組む絶好のチャンスでもあるのです。

相談員は、皆さんと時をともに過ごし、困難を乗り越けていくお手伝いをしています。困ったときは気軽に来てください。



児玉陽子相談員



岡 鈴佳相談員

開室時間

毎週火曜日 12:00~16:00 児玉陽子

毎週木曜日 12:00~16:00 岡 鈴佳

## 環境整備事業

環境保全委員長 木村 捷二郎

1996年(平成8年)の春、松原市から高槻市に移転して以来、9年が経過した。その間、構内外の樹木もすっかり大きくなり、年毎に大学らしい雰囲気が出てきた。学内の教育・研究施設を含めて、一応、移転に伴う主な環境整備はほぼ終了したようである。

強いて言えば、敷地内北西部の山側法面の一部に未整備の斜面が若干残されており、防災の立場から初夏の降雨時には少し気付きである。集中豪雨でもあれば、上部の山道からの鉄砲水が大学構内を抜けて隣家に流れ込む危険がある。この斜面には、移転直後、少しでも見栄え良くということで、桜と花モモの苗50本が植樹され、また、2年程前、施設課において、山道沿いにコンクリートブロックを並べた簡単な障壁工事など最小限の対策が行われた。一方、構外に目を向けると、移転当時、あちこち残っていた公団内の広場はほとんど整地・分譲され、周りはこざっぱりした住宅街に変身した感がある。また、大学の隣接地の中でも、「このエリアは大丈夫」と楽観視していた駐車場西側(京大地震観測所の裏山側)に、この2~3年前から、急に、宅地建設の話が進められ、大学図書館の南南西部(大和1丁目の西側)に4軒

の分譲住宅(1期工事)、大学駐車場西側に高層?または分譲住宅?(2期工事)、および大和1丁目西側沿いに分譲住宅(3期工事)が建設されるようである。ただ、いずれの地区も傾斜のきつい斜面で、降雨時の排水処理の難しい場所であり、地元の大和と奈佐原地区の住民から猛烈な反対運動が行われてきた。大学としても、本部・図書館および研究棟のすぐ目の前に位置し、民家・分譲後には、研究棟諸設備の騒音、夜間の照明、に、その他を理由にトラブル発生の元となることが予想される。

今春、大学の環境保全の立場から、2期工事に相当するエリア[約1,000余坪(約3,300m<sup>2</sup>)]の譲渡の可能性について、高槻市を通じて申し入れが行われたが、施工主の住宅建設・分譲の意志が強く、高槻市としても指導し切れなかったようである。大学にとって、この地区の地形は、将来的に学舎増設などの利用には難しいものであるが、隣接住宅とのトラブルを回避できるほか、薬草園や学生・教職員、同窓生諸兄弟の憩いの場などの緑化地帯としての利用が期待できたこともあり、まことに残念である。

# 平成16年度後期授業・実習評価アンケート

教務部長 松村 靖夫

平成16年度後期の授業・実習評価アンケートの結果を報告いたします。平成13年度から始まった本アンケートも4年目となり、本学における自己点検・評価活動の中でも極めて重要な項目に位置づけられるようになりました。平成16年度前期分からは、教員からの指摘に基づいていくつかの設問項目の表現に改良を加えました。詳細についてはアンケート結果をご覧くださいと思いますが、前回（平成16年度前期）、前々回（平成15年度後期）と比べ、ほぼ全ての設問項目（1～17）で高い数値が得られました。これは、各教員がこれまでのアンケート結果を謙虚に受け止め、講義に対して自己努力を重ねたことが要因の一つであると思われます。その一方、回を重ねる毎にアンケートの回答率が低下する傾向にあるという問題点も露呈してきています。特に今回は前回と比べて10ポイント以上の低下が見られることから、次回以降のアンケートでは何らかの対策をとる必要があると考えています。

本授業評価アンケートの結果に対する教員側からのコメントやメッセージは、学生に公開されています。また、教員サイドから教務部への要望も収集しています。今回は、項目7「私語や態度の悪い学生に対し注意するなど、

静かに授業が行われるよう工夫されていきましたか」という設問に対して「教室では私語があり、態度の悪い学生がいる」ということを前提としているのではないかと、この疑問が出されました。確かに少人数クラスの授業では当てはまらない可能性が高く、また現実問題として、本学に授業中の態度が悪い学生がいるのか？という点についても意見の分かれるところであると思われます。次回への検討事項にしたいと思っています。

アンケートの実施時期についても、アンケート結果を授業に還元するためには学期半ば頃に行うべきとの意見もあり、昨年度から、アンケート用紙の教員への配布時期を早めるようにしました。

本授業・実習評価アンケートの実施目的は、各授業・実習において各教員が自己努力を惜しまず、更なる質の改善に役立てることであります。また、学生の側から見れば、授業に対する日頃の取り組みや各自の勉学に対する意欲の点検に活かされるべきでありましょう。教務部としましても、本アンケートが本学の教育活動の改善により役立つよう、設問項目の点検や実施方法・時期等について議論したいと考えています。

## 2004年度後期授業評価アンケート集計

|        | 全学年     | 1年次生   | 2年次生   | 3年次生   |
|--------|---------|--------|--------|--------|
| 延べ履修人数 | 11,698名 | 4,255名 | 3,489名 | 3,954名 |
| 延べ回答人数 | 6,063名  | 2,612名 | 1,929名 | 1,522名 |
| 回答率    | 51.8%   | 61.4%  | 55.3%  | 38.5%  |

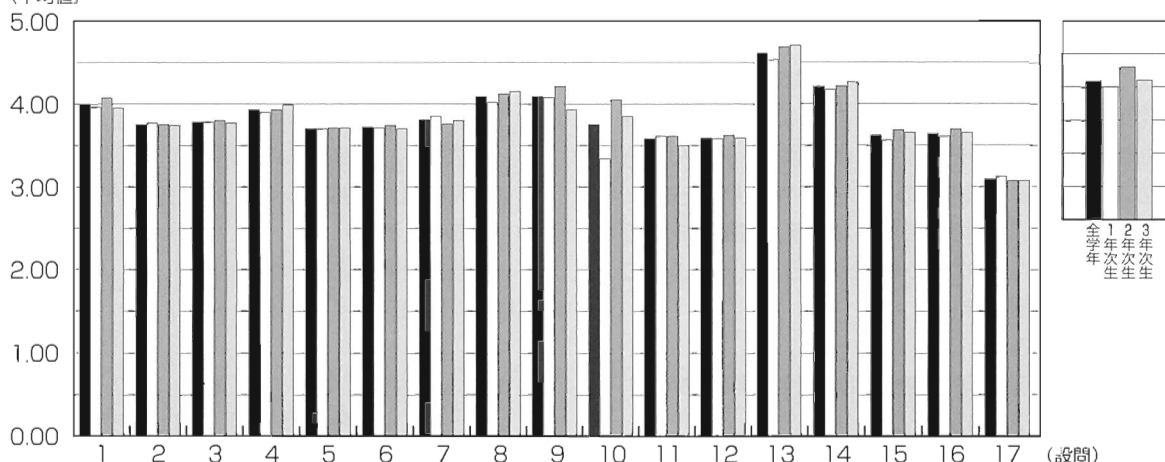
回答は、5-そう思う（5ポイント）、4-どちらかといえばそう思う（4ポイント）、3-どちらともいえない（3ポイント）、2-あまりそうは思わない（2ポイント）、1-そうは思わない（1ポイント）から選択。ただし、設問2, 9, 10については、0-該当しない（0ポイント）を設けている。また、各設問において回答がない場合は、集計から除外している。

### 〔設問〕

1. 口調が明瞭で聞き取りやすかったですか
2. 板書やその他（プリント、OHP、ビデオ、液晶プロジェクター）による説明が適切で授業の理解に役立ちましたか
3. ポイントをよく押さえ、うまく要約されていましたか
4. 授業は、「授業の内容」（シラバス）に沿って進められましたか
5. 授業は、説明が十分に理解しやすかったですか
6. 授業に対する関心を高める努力がなされていましたか
7. 私語や態度の悪い学生に対し注意するなど、静かに授業が行われるように工夫されていましたか
8. 授業は、時間通り始まり時間通り終わりましたか
9. 指定されたテキストや教材は適切に使用されていましたか
10. 休講があった場合、その補いは十分にされていましたか
11. 授業内容のレベルはあなたにとって適切でしたか。次の基準で回答してください  
(5-非常に難しい、4-難しい、3-適切、2-簡単、1-簡単すぎる)
12. この授業を総合的に評価してください。次の評価基準で回答してください  
(5-非常に良い、4-良い、3-普通、2-あまり良くない、1-良くない)
13. あなたは、この授業によく出席しましたか
14. あなたは、私語などせず授業に集中しましたか
15. この授業を受けてその分野に対する関心が高まりましたか
16. この授業は、あなたにとって有意義なものでしたか
17. あなた自身、授業を理解するよう努力（予習・復習等）していましたか



(平均値)



### 全学年

| 設問 | 平均値<br>(無回答<br>含まず) | 5<br>そう思う | 4<br>どちらかとい<br>えそう思う | 3<br>どちらとも<br>いえはない | 2<br>あまりそう<br>は思わない | 1<br>そうは<br>思わない | 0<br>該当<br>しない | 無回答  |
|----|---------------------|-----------|----------------------|---------------------|---------------------|------------------|----------------|------|
| 1  | 3.99                | 33.7%     | 40.3%                | 18.9%               | 5.6%                | 1.5%             | -              | 0.0% |
| 2  | 3.75                | 24.8%     | 36.2%                | 24.4%               | 7.6%                | 2.9%             | 3.8%           | 0.2% |
| 3  | 3.78                | 25.3%     | 38.6%                | 27.0%               | 6.5%                | 2.3%             | -              | 0.3% |
| 4  | 3.93                | 28.6%     | 38.6%                | 29.5%               | 2.0%                | 0.7%             | -              | 0.6% |
| 5  | 3.70                | 23.0%     | 38.0%                | 28.1%               | 8.0%                | 2.8%             | -              | 0.1% |
| 6  | 3.72                | 23.3%     | 36.5%                | 30.5%               | 7.1%                | 2.3%             | -              | 0.2% |
| 7  | 3.81                | 26.1%     | 36.7%                | 30.2%               | 5.0%                | 1.6%             | -              | 0.3% |
| 8  | 4.09                | 38.8%     | 38.3%                | 17.1%               | 3.8%                | 1.8%             | -              | 0.2% |
| 9  | 4.09                | 35.4%     | 32.7%                | 15.8%               | 3.8%                | 1.4%             | 10.5%          | 0.2% |
| 10 | 3.75                | 7.5%      | 5.6%                 | 7.8%                | 1.0%                | 1.2%             | 75.9%          | 1.0% |
| 11 | 3.58                | 12.1%     | 36.8%                | 47.7%               | 2.4%                | 0.4%             | -              | 0.5% |
| 12 | 3.59                | 16.8%     | 37.2%                | 36.1%               | 7.4%                | 2.2%             | -              | 0.3% |
| 13 | 4.62                | 72.9%     | 18.6%                | 6.6%                | 1.2%                | 0.6%             | -              | 0.2% |
| 14 | 4.21                | 44.5%     | 36.0%                | 15.6%               | 2.8%                | 0.9%             | -              | 0.2% |
| 15 | 3.62                | 21.5%     | 34.5%                | 31.8%               | 8.1%                | 3.8%             | -              | 0.3% |
| 16 | 3.64                | 21.8%     | 35.6%                | 30.9%               | 7.5%                | 3.8%             | -              | 0.3% |
| 17 | 3.09                | 10.7%     | 22.6%                | 41.4%               | 15.1%               | 9.8%             | -              | 0.3% |

### 1年次生

| 設問 | 平均値<br>(無回答<br>含まず) | 5<br>そう思う | 4<br>どちらかとい<br>えそう思う | 3<br>どちらとも<br>いえはない | 2<br>あまりそう<br>は思わない | 1<br>そうは<br>思わない | 0<br>該当<br>しない | 無回答  |
|----|---------------------|-----------|----------------------|---------------------|---------------------|------------------|----------------|------|
| 1  | 3.96                | 33.3%     | 37.9%                | 21.4%               | 5.8%                | 1.5%             | -              | 0.0% |
| 2  | 3.77                | 26.1%     | 36.6%                | 23.8%               | 7.0%                | 3.5%             | 2.9%           | 0.1% |
| 3  | 3.78                | 26.1%     | 37.1%                | 27.2%               | 6.8%                | 2.5%             | -              | 0.3% |
| 4  | 3.90                | 26.2%     | 40.3%                | 30.5%               | 2.2%                | 0.6%             | -              | 0.3% |
| 5  | 3.70                | 23.3%     | 37.6%                | 28.0%               | 7.8%                | 3.3%             | -              | 0.0% |
| 6  | 3.71                | 23.0%     | 36.1%                | 31.5%               | 7.2%                | 2.2%             | -              | 0.1% |
| 7  | 3.85                | 28.5%     | 36.6%                | 28.3%               | 4.9%                | 1.6%             | -              | 0.1% |
| 8  | 4.02                | 33.4%     | 41.2%                | 20.6%               | 3.6%                | 1.0%             | -              | 0.1% |
| 9  | 4.08                | 34.0%     | 28.4%                | 15.4%               | 3.7%                | 1.5%             | 16.9%          | 0.2% |
| 10 | 3.34                | 3.8%      | 3.6%                 | 8.2%                | 1.3%                | 1.8%             | 80.7%          | 0.7% |
| 11 | 3.61                | 14.1%     | 36.3%                | 45.8%               | 2.9%                | 0.5%             | -              | 0.5% |
| 12 | 3.58                | 15.8%     | 37.5%                | 37.1%               | 7.0%                | 2.2%             | -              | 0.4% |
| 13 | 4.53                | 68.3%     | 20.1%                | 8.5%                | 2.0%                | 0.8%             | -              | 0.2% |
| 14 | 4.17                | 42.7%     | 36.5%                | 16.0%               | 3.8%                | 0.8%             | -              | 0.2% |
| 15 | 3.56                | 19.8%     | 32.7%                | 35.1%               | 7.7%                | 4.4%             | -              | 0.3% |
| 16 | 3.61                | 20.6%     | 34.7%                | 33.1%               | 7.2%                | 4.1%             | -              | 0.3% |
| 17 | 3.12                | 11.3%     | 23.6%                | 40.6%               | 14.4%               | 9.8%             | -              | 0.3% |

### 2年次生

| 設問 | 平均値<br>(無回答<br>含まず) | 5<br>そう思う | 4<br>どちらかとい<br>えそう思う | 3<br>どちらとも<br>いえはない | 2<br>あまりそう<br>は思わない | 1<br>そうは<br>思わない | 0<br>該当<br>しない | 無回答  |
|----|---------------------|-----------|----------------------|---------------------|---------------------|------------------|----------------|------|
| 1  | 4.07                | 34.1%     | 44.1%                | 17.4%               | 3.5%                | 0.9%             | -              | 0.1% |
| 2  | 3.75                | 24.0%     | 35.3%                | 27.6%               | 8.2%                | 1.5%             | 3.1%           | 0.4% |
| 3  | 3.80                | 24.4%     | 39.2%                | 29.0%               | 6.0%                | 1.2%             | -              | 0.3% |
| 4  | 3.93                | 29.1%     | 36.6%                | 31.6%               | 1.3%                | 0.7%             | -              | 0.7% |
| 5  | 3.71                | 23.0%     | 35.9%                | 31.7%               | 7.7%                | 1.6%             | -              | 0.2% |
| 6  | 3.74                | 23.9%     | 35.7%                | 32.0%               | 6.4%                | 1.7%             | -              | 0.3% |
| 7  | 3.76                | 22.7%     | 37.6%                | 33.3%               | 4.7%                | 1.3%             | -              | 0.4% |
| 8  | 4.12                | 41.1%     | 37.3%                | 15.6%               | 3.4%                | 2.4%             | -              | 0.3% |
| 9  | 4.21                | 40.2%     | 37.6%                | 16.1%               | 1.5%                | 0.3%             | 3.8%           | 0.4% |
| 10 | 4.05                | 11.0%     | 7.7%                 | 7.6%                | 0.6%                | 0.3%             | 71.8%          | 1.0% |
| 11 | 3.61                | 11.5%     | 40.1%                | 45.8%               | 1.9%                | 0.4%             | -              | 0.4% |
| 12 | 3.62                | 17.3%     | 35.8%                | 39.0%               | 6.5%                | 1.1%             | -              | 0.3% |
| 13 | 4.68                | 75.2%     | 18.6%                | 5.1%                | 0.6%                | 0.3%             | -              | 0.3% |
| 14 | 4.21                | 44.4%     | 36.2%                | 16.1%               | 2.0%                | 1.0%             | -              | 0.3% |
| 15 | 3.68                | 23.6%     | 34.4%                | 30.5%               | 8.3%                | 2.7%             | -              | 0.4% |
| 16 | 3.69                | 23.1%     | 34.9%                | 31.9%               | 7.2%                | 2.6%             | -              | 0.4% |
| 17 | 3.07                | 10.0%     | 22.0%                | 42.5%               | 15.1%               | 10.1%            | -              | 0.3% |

### 3年次生

| 設問 | 平均値<br>(無回答<br>含まず) | 5<br>そう思う | 4<br>どちらかとい<br>えそう思う | 3<br>どちらとも<br>いえはない | 2<br>あまりそう<br>は思わない | 1<br>そうは<br>思わない | 0<br>該当<br>しない | 無回答  |
|----|---------------------|-----------|----------------------|---------------------|---------------------|------------------|----------------|------|
| 1  | 3.95                | 33.8%     | 39.6%                | 16.4%               | 8.0%                | 2.2%             | -              | 0.0% |
| 2  | 3.74                | 23.7%     | 36.9%                | 21.3%               | 7.7%                | 3.8%             | 6.4%           | 0.3% |
| 3  | 3.77                | 25.2%     | 40.4%                | 24.0%               | 6.8%                | 3.4%             | -              | 0.3% |
| 4  | 3.99                | 31.9%     | 38.3%                | 25.2%               | 2.6%                | 0.9%             | -              | 1.1% |
| 5  | 3.71                | 22.5%     | 41.4%                | 23.5%               | 8.9%                | 3.5%             | -              | 0.1% |
| 6  | 3.70                | 23.1%     | 38.2%                | 27.1%               | 8.1%                | 3.2%             | -              | 0.3% |
| 7  | 3.80                | 26.3%     | 36.0%                | 29.7%               | 5.6%                | 1.9%             | -              | 0.5% |
| 8  | 4.15                | 45.3%     | 34.4%                | 12.9%               | 4.7%                | 2.6%             | -              | 0.2% |
| 9  | 3.93                | 31.8%     | 33.8%                | 16.2%               | 7.0%                | 2.8%             | 8.1%           | 0.2% |
| 10 | 3.85                | 9.3%      | 6.5%                 | 7.4%                | 1.1%                | 1.2%             | 72.9%          | 1.6% |
| 11 | 3.50                | 9.5%      | 33.7%                | 53.5%               | 2.4%                | 0.4%             | -              | 0.5% |
| 12 | 3.59                | 18.0%     | 38.3%                | 30.8%               | 9.1%                | 3.4%             | -              | 0.3% |
| 13 | 4.70                | 77.7%     | 16.1%                | 5.2%                | 0.3%                | 0.5%             | -              | 0.2% |
| 14 | 4.26                | 47.6%     | 34.9%                | 14.2%               | 2.2%                | 0.9%             | -              | 0.2% |
| 15 | 3.65                | 21.6%     | 37.8%                | 27.7%               | 8.5%                | 4.0%             | -              | 0.4% |
| 16 | 3.65                | 22.3%     | 38.0%                | 26.0%               | 8.6%                | 4.6%             | -              | 0.4% |
| 17 | 3.07                | 10.6%     | 21.6%                | 41.5%               | 16.6%               | 9.5%             | -              | 0.3% |

創薬や患者・医療関係者への対応において、薬の効果と副作用の両面を十分に検討することにより、薬物治療の有効性（適正使用）を評価しなければなりません。そのためには、特に、副作用の成り立ちや症状等を知り、早期発見に貢献し、その回避や軽減対策を提案できることが求められます。このような観点から、以下のように3回にわたって開催します。

●平成17年度主題：

『くすりの作用と副作用～薬物治療における安全管理のために～』

各回・受付開始13時30分／開会14時／

講演開始14時10分（各90分）／閉会17時35分

◎第39回 5月21日(土)

①『薬による腎障害を減らすためにできること』

浜松医科大学第一内科教授・菱田 明 氏

②『生体リズムと薬の作用・副作用』

自治医科大学薬理学教授・藤村 昭夫 氏

◎第40回 7月16日(土)

①『薬物による心臓毒性』

山梨大学大学院医学工学総合研究部薬理学教授・橋本 敬太郎 氏

②『くすりの代謝の個人差と安全な使用』

東北大学大学院薬学研究科教授・山添 康 氏

◎第41回11月26日(土)

①『くすりと薬剤性血液障害の発生機序』

国立医薬品食品衛生研究所毒性部室長・平林 容子 氏

②『小児科領域におけるくすりの副作用～効果との対比で考える～』

高槻赤十字病院医師小児科部長・林 敬次 氏

開催場所：梅田スカイビルタワーウエスト36階 会議室L

アクセス：JR大阪駅中央・北口から、前方に梅田スカイビル（会場）、右手にヨドバシカメラを見て、北へ徒歩10分（途中に地下歩道があります）。

受講料：当日受付。1回2,000円（本学卒業生1,000円）[受講資料集代を含む]

受講の特典：本学の受講修了証。薬剤師の方には、(財)日本薬剤師研修センターの「受講シール」、(社)大阪府薬剤師会の「薬剤師生涯教育受講証」などを当日にお手渡しします。

お問い合わせ：〒569-1094

大阪薬科大学公開教育講座委員会

(玄番, 三野, 大桃, 高岡, 廣谷)

TEL：072-690-1019（入試・広報課）

072-690-1052（玄番）

FAX：072-690-1018

URL：http://www.oups.ac.jp/

E-mail：gemba@gly.oups.ac.jp

# 平成17年度市民講座

主に市民の方を対象として実施している恒例の市民講座を、本年度も2回開催いたします。講演内容はこれまでの参加者の皆様のアンケート結果を参考に決定し、皆様の意向に沿った企画内容となるよう努めています。

同時に、「くすりの相談室」、「薬用植物園の見学」も行います。「くすりの相談室」では第一線でご活躍中の

薬剤師（約20名）に、くすりに関するあらゆる相談に応じていただきます。ご近所の方などとお誘い合わせの上、多数ご参加ください。

なお、第20回大阪薬科大学市民講座につきましては、下記のとりの演題・講師を予定しておりますのでご期待ください。

第19回大阪薬科大学市民講座

日 時：平成17年5月28日(土)13:00～16:10

場 所：大阪薬科大学 講堂

定 員：350名（先着順／申込み不要）

受講料：無料

演題／講師：

「家族と共にケアする～我が家のような住まいづくり～」

NPO法人 水度坂友愛ホーム 理事長 梅田 史世 氏

「老いと物忘れ～病気としての理解と、『生活する老人』としての理解と～」

医療法人光愛会 光愛病院 医師 大西 雅彦 氏

第20回大阪薬科大学市民講座

日 時：平成17年10月22日(土)13:00～16:10

場 所：大阪薬科大学 講堂

定 員：350名（先着順／申込み不要）

受講料：無料

演題／講師：

「皮膚病関連について」（予定）

関西医科大学 皮膚科学講座 教授 堀尾 武 氏

「腰痛・関節痛について」（予定）

大阪赤十字病院 整形外科部長 富原 光雄 氏

# 平成16年度学校法人決算および平成17年度学校法人予算

事務局長 肥塚 敏彰

## ■ 平成16年度決算

学校法人大阪薬科大学の平成16年度決算については、平成17年5月24日（火）に開催された理事会および評議員会において承認されたので、資金収支計算書・消費収支計算書・貸借対照表（各総括表）を掲載し、その概要を説明する。

（資金収支計算書）

主な収入源である学生生徒等納付金収入が、在籍学生数増により、予算を1億1,506万円上回った。また、主な支出源である人件費支出が、予算を9,218万円下回った。その結果、次年度繰越支払資金は22億3,707万円となった。

（消費収支計算書）

平成16年度の消費収支は、予算より改善され、消費収入超過額は1億6,615万円であり、翌年度繰越消費収入超過額は9億7,069万円となった。

（貸借対照表）

平成16年度資産総額は、15年度に比して3億1,120万円増加し、219億1,010万円となった。負債総額は借入金元金の減少等から、15年度に比して2億9,091万円減少し、43億9,063万円となった。

## ■ 平成17年度予算

学校法人大阪薬科大学の平成17年度予算については、理事会の予算編成方針に基づき、予算委員会の審議を経て編成を行ったが、平成17年3月24日（木）に開催された理事会および評議員会において承認されたので、資金収支予算書・消費収支予算書（各総括表）を掲載し、資金収支科目を中心に、その概要を説明する。

（総括）

平成17年度の収入予算総額（収入の部合計－前年度繰越支払資金）は34億1,580万円、支出予算総額（支出の部合計－次年度繰越支払資金）は33億2,850万円であり、差引き8,730万円の収入超過となる。

<収入の部>

（学生生徒等納付金収入）

学部新入生は入学定員（300名）として予算編成し、授業料15億8,720万円、入学金1億2,900万円、施設設備費7億4,880万円他を計上した。

（補助金収入）

私立大学経常費補助金2億4,600万円、施設整備費補助金2,500万円他を計上した。

（資産売却収入）

新堂校地100坪の松原市への売却分1,650万円を計上した。

（事業収入）

附属薬局の収入予算4億2,600万円他を計上した。

<支出の部>

（人件費支出）

教員人件費は教員充実予算3,000万円を含め9億5,530万円、職員人件費は附属薬局分を含め4億4,180万円、退職金は1億2,740万円他を計上した。

（教育研究経費支出）

大阪薬科大学奨学金給付金（特待奨学金・一般奨学金）590万円、紀要400万円、自己点検・評価報告書400万円、一般事務アウトソーシング（学内ネット等管理含）2,000万円、薬学教育6年制に係る項目として、電子シラバスシステムソフト修正600万円、教務プログラム修正（カリキュラム改正）650万円他を計上した。

（管理経費支出）

百年史の増刷300万円、一般事務アウトソーシング1,250万円、附属薬局の物件費3億8,560万円他を計上した。

（構築物支出）

百周年記念事業未実施分の記念植樹費用100万円を計上した。

（資産運用支出）

教育奨学基金の創設1,500万円、国際交流基金の創設500万円、計2,000万円を特定資産への繰り入れとして計上した。なお、教育奨学基金の平成16年度特定資産繰り入れ分7,000万円は平成17年度に第3号基本金に組み入れることとし、消費収支予算の基本金組入額合計に計上した。

（その他の支出）

大阪薬科大学奨学金貸付金（一般奨学金）700万円他を計上した。

## 資金収支計算書（総括表）

（単位：千円）

| 収入の部       |           |           |           |
|------------|-----------|-----------|-----------|
| 科 目        | 平成16年度予算  | 平成16年度決算  | 平成17年度予算  |
| 学生生徒等納付金収入 | 2,384,900 | 2,499,960 | 2,468,000 |
| 手数料収入      | 150,200   | 135,516   | 111,200   |
| 寄付金収入      | 106,000   | 130,365   | 16,000    |
| 補助金収入      | 294,300   | 276,461   | 274,300   |
| 資産運用収入     | 30,000    | 52,456    | 30,000    |
| 資産売却収入     | 0         | 2,070,164 | 16,500    |
| 事業収入       | 431,000   | 449,016   | 434,000   |
| 雑収入        | 62,500    | 67,953    | 107,800   |
| 前受金収入      | 417,500   | 565,150   | 412,000   |
| その他の収入     | 157,800   | 663,686   | 145,500   |
| 資金収入調整勘定△  | 550,000   | 628,051   | 599,500   |
| 前年度繰越支払資金  | 2,460,000 | 2,458,969 | 2,296,000 |
| 収入の部合計     | 5,944,200 | 8,741,645 | 5,711,800 |

| 支出の部      |           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 科 目       | 平成16年度予算  | 平成16年度決算  | 平成17年度予算  |
| 人件費支出     | 1,486,500 | 1,394,314 | 1,546,500 |
| 教育研究経費支出  | 549,300   | 516,072   | 560,000   |
| 管理経費支出    | 537,600   | 527,469   | 499,200   |
| 借入金等利息支出  | 150,400   | 150,397   | 133,400   |
| 借入金等返済支出  | 344,500   | 344,430   | 344,500   |
| 施設関係支出    | 900       | 18,292    | 1,000     |
| 設備関係支出    | 192,700   | 129,906   | 180,900   |
| 資産運用支出    | 100,000   | 3,404,396 | 20,000    |
| その他の支出    | 181,000   | 183,806   | 186,400   |
| [予備費]     | 10,000    | 0         | 20,000    |
| 資金支出調整勘定△ | 155,700   | 164,507   | 163,400   |
| 次年度繰越支払資金 | 2,547,000 | 2,237,070 | 2,383,300 |
| 支出の部合計    | 5,944,200 | 8,741,645 | 5,711,800 |

## 消費収支計算書（総括表）

（単位：千円）

| 消費収入の部    |           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 科 目       | 平成16年度予算  | 平成16年度決算  | 平成17年度予算  |
| 学生生徒等納付金  | 2,384,900 | 2,499,960 | 2,468,000 |
| 手数料       | 150,200   | 135,516   | 111,200   |
| 寄付金       | 106,000   | 133,509   | 16,000    |
| 補助金       | 294,300   | 276,461   | 274,300   |
| 資産運用収入    | 30,000    | 52,456    | 30,000    |
| 資産売却差額    | 0         | 628       | 15,800    |
| 事業収入      | 431,000   | 449,016   | 434,000   |
| 雑収入       | 62,500    | 67,953    | 107,800   |
| 帰属収入合計    | 3,458,900 | 3,615,499 | 3,457,100 |
| 基本金組入額合計△ | 480,000   | 435,964   | 544,300   |
| 消費収入の部合計  | 2,978,900 | 3,179,535 | 2,912,800 |

| 消費支出の部       |           |           |           |
|--------------|-----------|-----------|-----------|
| 科 目          | 平成16年度予算  | 平成16年度決算  | 平成17年度予算  |
| 人件費          | 1,458,400 | 1,379,164 | 1,516,100 |
| 教育研究経費       | 953,200   | 908,391   | 955,500   |
| 管理経費         | 573,900   | 563,683   | 538,200   |
| 借入金等利息       | 150,400   | 150,397   | 133,400   |
| 資産処分差額       | 0         | 8,145     | 0         |
| 徴収不能額        | 0         | 3,600     | 0         |
| [予備費]        | 10,000    | 0         | 20,000    |
| 消費支出の部合計     | 3,145,900 | 3,013,380 | 3,163,200 |
| 当年度消費収入超過額   | -         | 166,155   | -         |
| 当年度消費支出超過額   | 167,000   | -         | 250,400   |
| 前年度繰越消費収入超過額 | 778,000   | 804,540   | 922,300   |
| 翌年度繰越消費収入超過額 | 611,000   | 970,695   | 671,900   |

## 貸借対照表（総括表）

（単位：千円）

| 資産の部     |            |            |
|----------|------------|------------|
| 科 目      | 平成15年度末    | 平成16年度末    |
| 固定資産     | 18,148,456 | 18,698,799 |
| 有形固定資産   | 16,071,481 | 15,795,741 |
| その他の固定資産 | 2,076,975  | 2,903,058  |
| 流動資産     | 3,450,440  | 3,211,304  |
| 資産の部合計   | 21,598,896 | 21,910,103 |

| 負債の部                   |            |            |
|------------------------|------------|------------|
| 科 目                    | 平成15年度末    | 平成16年度末    |
| 固定負債                   | 3,701,155  | 3,341,576  |
| 流動負債                   | 980,396    | 1,049,063  |
| 負債の部合計                 | 4,681,551  | 4,390,639  |
| 基本金の部                  |            |            |
| 第1号基本金                 | 15,911,805 | 16,347,769 |
| 第4号基本金                 | 201,000    | 201,000    |
| 基本金の部合計                | 16,112,805 | 16,548,769 |
| 消費収支差額の部               |            |            |
| 翌年度繰越消費収入超過額           | 804,540    | 970,695    |
| 消費収支差額の部合計             | 804,540    | 970,695    |
| 負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計 | 21,598,896 | 21,910,103 |

# 教務課だより

## 平成17年度 前期行事予定 〈学部〉

- 4.4(月)入学式(学部・大学院)  
4.5(火)新入生ガイダンス  
4.6(水)校医講演・新入生健康診断・アドバイザー面談  
第90回薬剤師国家試験合格者発表(厚生労働省)  
4.7(木)前期授業開始  
健康診断  
4.12(火)健康診断  
4.13(水)前期選択科目履修届提出締切(1~3年次生)  
4.18(月)健康診断
- 5.2(月)創立記念日(5月9日)の振替休日  
5.9(月)創立記念日  
5.10(火)薬学総合演習オリエンテーション(4年次生)  
5.13(金)新入生歓迎会(五月祭)  
5.16(月)就職ガイダンス(3年次生)
- 6.4(土)学友会球技大会  
6.10(金)前期授業終了(4年次生)  
6.16(木)  
{ 前期定期試験(4年次生)  
6.21(火)  
6.22(水)前期定期試験(4年次生)欠席届提出締切
- 7.4(月)平成18年度大学院修士課程推薦入学試験  
7.12(火)平成18年度大学院修士課程推薦入学試験合格者発表  
7.13(水)前期授業終了(1~3年次生)  
7.14(木)前期授業予備日(1~3年次生)  
7.15(金)  
{ 前期定期試験(1~3年次生)  
7.29(金)
- 8.1(月)前期定期試験(1~3年次生)欠席届提出締切  
午後1時(教務課)  
8.19(金)平成18年度大学院修士課程一般入学試験  
8.26(金)前期再試験受験者発表(4年次生)  
8.30(火)前期再試験受験者発表(1~3年次生)  
平成18年度大学院修士課程一般入学試験合格者発表
- 9.2(金)  
{ 前期再試験(4年次生)9月10日(土)を含む  
9.14(水)  
9.5(月)  
{ 前期再試験(1~3年次生)9月10日(土)を含む  
9.14(水)  
9.15(木)後期授業開始(1~3年次生)  
9.22(木)特別再試験受験者発表(4年次生)  
9.26(月)就職ガイダンス(3年次生)

## 平成17年度 前期行事予定 〈大学院〉

- 4.4(月)入学式  
4.7(木)健康診断  
4.11(月)前期特論開始  
4.12(火)健康診断  
4.18(月)前期特論選択科目履修届提出締切  
健康診断
- 5.2(月)創立記念日(5月9日)の振替休日  
5.9(月)創立記念日
- 6.6(月)臨床実務研修報告会  
6.20(月)  
{ 平成18年度修士課程推薦入学試験出願受付  
6.24(金)
- 7.4(月)平成18年度修士課程推薦入学試験  
7.12(火)平成18年度修士課程推薦入学試験合格者発表  
7.19(火)  
{ 平成18年度修士課程一般入学試験出願受付  
7.29(金)  
7.22(金)前期特論終了
- 8.19(金)平成18年度修士課程一般入学試験  
8.30(火)平成18年度修士課程一般入学試験合格者発表

## 学位授与

### 〔修士〕

修士(薬学) 56名  
(平成17年3月19日付)

### 〔学士〕

学士(薬学) 製薬学科 2名  
(平成16年12月31日付)

学士(薬学) 薬学科 139名  
製薬学科 97名  
236名  
(平成17年3月19日付)

## 平成16年度大学院修士課程 修士論文題目

| 氏名      | 専攻分野   | 修士論文題目   |
|---------|--------|--|
| 青木 典子   | 分析化学   | シスプラチン関連白金(II)二核錯体のヒト卵巣がん細胞に対する作用  |
| 藤原 理恵   | 有機薬科学  | 新骨格azalignanの合成に関する研究  |
| 天野 絵美   | 臨床薬学   | 色素-金属錯体を用いるタンパク質の吸光度定量法の開発に関する研究   |
| * 石井 史絵 | 臨床薬学   | 臨床的研究-1: 非アルコール性脂肪性肝炎の臨床病理学的検討~非アルコール性脂肪肝との比較~<br>臨床的研究-2: H. pylori除菌療法の効果と副作用        |
| * 泉本 裕美 | 臨床薬学   | 薬理遺伝学に基づく個別薬物療法の臨床応用に向けて   |
| 今田 隆文   | 薬理学    | 一側尿管結紮による腎間質線維化への活性酸素の関与   |
| 岩本 憲明   | 薬理学    | 薬物性急性腎不全に対する血清胸腺因子の影響  |
| * 浦嶋 和也 | 臨床薬学   | 基礎的研究: Bupivacaine製剤の心臓に及ぼす影響の成因について<br>臨床的研究: 大阪医科大学附属病院における化学療法センターと薬剤師のかかわり         |
| 太田 早苗   | 臨床薬学   | レゾルシノールとアルデヒドの縮合反応を用いるピロリン酸および関連化合物の蛍光光度定量法の開発に関する研究                                   |
| 大西 慶彦   | 分析化学   | ピラゾール型配位子を有する白金(II)二核錯体の構造と活性の相関   |
| 岡田祐貴子   | 薬用資源学  | アシタバ特有カルコン誘導体Xanthoangelolが脳卒中易発症性高血圧自然発症ラットの脂質代謝に及ぼす分子・遺伝子レベルでの研究                     |
| 岡野 正    | 有機薬科学  | 1-Azalignanの合成に関する研究   |
| * 押田和可子 | 分析化学   | セレンのビスチオールIIスルホン酸カリウムを用いた抽出および原子吸光度法による定量  |
| 勝間 秀行   | 分析化学   | 腫瘍血管新生因子VEGF受容体を標的とする新規診断薬剤の合成   |
| 門林 宏子   | 臨床薬学   | 3,4,5,6-テトラフルオロ-2-カルボキシフェニルフルオロンとマンガン(II)イオンを用いるDNA結合タンパク質、ヒストンの分析法の開発に関する研究           |
| 神野伸一郎   | 臨床薬学   | カルボキシフェニルフルオロンを用いる金属イオンの微量定量法の開発研究   |
| 川口 敏弘   | 薬理学    | ラットを用いた小腸CYP3Aによる薬物代謝の評価   |
| 川西 秀明   | 薬理学    | DOCA-食塩誘発性高血圧の性差におけるエンドセリンET <sub>A</sub> 受容体の関与について                                   |
| 川本 英雅   | 臨床薬学   | 遺伝的心筋症の原因と発生機構に関する研究   |
| 岸本早江子   | 薬理学    | シスプラチンの殺細胞活性における細胞内輸送構成タンパク遺伝子AP1S1の関与   |
| 北筋 広美   | 生物科学   | 前脳基底核損傷ラットを用いた脳と免疫系のクロストークに関する研究   |
| * 木寺 康裕 | 分析化学   | ESRを用いたセレン化合物のラジカル消去能の評価   |
| 熊井 仁美   | 分析化学   | トリペプチドGlycyl-L-histidyl-L-lysineおよびその銅錯体の生物活性に関する研究                                    |
| 近藤 太郎   | 薬用資源学  | 中国産セリ科生薬、多管葉本のフェノール性成分に関する研究   |
| 塩田 龍吾   | 分析化学   | ICP-MSによる輸液中のアルミニウムの定量に関する研究   |
| 白井 僚一   | 生物科学   | アオダイショウ血清由来ホスホリパーゼA <sub>2</sub> 阻害タンパク質、およびマウス血清由来ロイシンリッチα <sub>2</sub> グロブリンに関する研究   |
| 住澤 亨    | 薬理学    | 新規oil matrixを用いた脂溶性薬物のための経口徐放化製剤の開発  |
| 隋 広     | 薬理学    | 高血圧治療薬併用時の体内動態と薬効の解析   |
| 田澤 尚子   | 薬理学    | 動脈硬化の発症・進展に対する低酸素の影響と内因性エストロゲンの関与について -アポリポタンパクE欠損マウスを用いた検討-                           |
| 谷内 三郎   | 薬理学    | 腎動脈分枝血管結紮と片腎摘出による慢性腎不全進展への活性酸素の役割  |
| * 津倉 由里 | 臨床薬学   | 臨床的研究-1: がん対応医療システムによる薬剤師の臨床教育に関する質的研究<br>臨床的研究-2: 心疾患を有する乳児におけるテイコブラニン薬物動態に基づく投与指針の作成 |
| 時政 真理   | 生物物理化学 | Tauタンパク質分子中の微小管結合ドメイン(MBD)リピートペプチドのフィラメント形成能と構造研究-R2とR3のwild体及び変換体について-                |
| 内藤 英之   | 薬用資源学  | 中国産セリ科生薬 帰葉稜子芥 ( <i>Pleurospermum angelicoides</i> Benth.) のフェノール性成分に関する研究             |
| 仲 定宏    | 分析化学   | EGFレセプターチロシンキナーゼ活性を指標とする癌診断薬剤の開発に関する基礎的検討  |
| 中川 麗子   | 薬理学    | 培養腎上皮細胞の低酸素-再酸素化障害における細胞内ATP含量の変動と活性酸素産生との関係   |
| 中島 淳志   | 薬理学    | 腎虚血再灌流障害における一酸化窒素の二面的役割  |
| 西川 満則   | 薬理学    | 腎虚血再灌流障害における性差と一酸化窒素合成酵素の役割  |
| * 西原 舞  | 臨床薬学   | 臨床的研究-1: 透析患者における便秘症についての実態調査<br>臨床的研究-2: 血液透析患者における虚血性腸炎の発症因子に関する研究                   |
| 原 尚文    | 有機薬科学  | L-アデノシンを含むトリリボヌクレオチドの合成とその性質に関する研究   |
| 平岡 周子   | 生物物理化学 | Tauタンパク質微小管結合ドメイン(MBD)の自己凝集に関する物性研究-Wild type及びFTDP-17で見られる変異体の物理化学的性質について-            |
| 福田 優子   | 薬用資源学  | モミジバフウの新規トリテルペノイドの構造と抗腫瘍活性   |
| 藤本 裕介   | 臨床薬学   | アミン誘導体を用いるキノン類および銅(II)イオンの吸光度定量法の開発  |
| 藤原あずさ   | 臨床薬学   | ラット敗血症モデルにおけるジゴキシン薬物動態   |
| 前田 貞治   | 衛生薬学   | ダイオキシン汚染土壌を対象にしたファイトレメディエーションに関する研究-植物のDCDD吸収活性について-                                   |
| 松浦 大輔   | 薬用資源学  | 中国産セリ科生薬、法落海フェノール性成分に関する研究   |
| 吉田 千春   | 有機薬科学  | ジアザフルベンを活用したピラゾールC-ヌクレオシドの新規合成法の開発   |
| 松本 典子   | 薬理学    | 心虚血再灌流障害における1型Na <sup>+</sup> /Ca <sup>2+</sup> 交換体(NCX1)の役割-NCX1過剰発現マウスを用いた検討-        |
| * 宮地加奈子 | 臨床薬学   | α-ヒドロキシヒドロキノフタレインと金属イオンを用いる生体機能関連化合物の分析法の開発  |
| 森 摩耶    | 臨床薬学   | Caco-2細胞における膜透過性に及ぼすcapsaicinの影響   |
| 山口 智晴   | 薬用資源学  | Serratane型トリテルペンPJ-1の化学的癌予防に関する研究  |
| 山口 真帆   | 有機薬科学  | RNAプローブ開発のためのイミダゾール C-ヌクレオシドホスホロアミダイトの合成研究   |
| 山本 一紀   | 臨床薬学   | 肝血流量に及ぼすcapsaicinの影響に関する基礎的研究  |
| 山本 和秀   | 分析化学   | キャピラリー電気泳動法によるエノキサシンの光分解反応の解析  |
| 湯北真由美   | 衛生薬学   | 蛍光X線分析法とICP-MSを用いる野菜中の多元素分析に関する研究  |
| 和田 隆平   | 分析化学   | 制がん性白金(II)錯体とDNAとの非共有結合的相互作用の解析  |
| 橋 加奈子   | 臨床薬学   | メトプロロールの体内動態解析に関する研究   |

\*印は、臨床薬学コースを示す。

# 総務課だより

## ■ 人 事

### <大学関係>

採用 (平成17年1月1日付)

附属薬局薬剤師 濱崎 美佳 (嘱託職員)  
(平成17年4月1日付)

教授 田中 孝生

客員教授 小林 祐次 (常勤)

助手 土屋 孝弘

教務職員 加藤 隆児 (嘱託職員)

事務職員 前野 真徳 (施設課)

退職 (平成17年3月31日付)

教授 栗原 拓史 (定年)

助手 西堀 崇子

技能職員 神田 実 (定年)

(平成17年4月30日付)

助手 原田 勇一

昇任 (平成17年1月1日付)

講師 宮本 勝城

(平成17年4月1日付)

教授 赤木 昌夫

併任 (平成17年1月1日付)

共同研究センター長 千熊 正彦 (教授)

(平成17年1月27日付)

大学院博士前期課程担当教員 宮本 勝城 (講師)

(平成17年2月1日付)

機能分子科学部門長 栗原 拓史 (教授)

分子薬科学部門長 木村捷二郎 (教授)

生命薬科学部門長 松村 靖夫 (教授)

薬用植物園長 馬場さきみ江 (教授)

(平成17年3月13日付)

臨床薬学教育研究群長 田中 一彦 (教授)

(平成17年4月1日付)

教務部長 松村 靖夫 (教授)

学生部長 木村捷二郎 (教授)

(平成17年4月20日付)

放射線取扱主任者 大桃 善朗 (助教授)

(平成17年4月21日付)

大学院博士後期課程担当教員 田中 孝生 (教授)

大学院博士後期課程担当教員 小林 祐次 (客員教授)

退任 (平成17年4月19日付)

木村捷二郎 (放射線取扱主任者)

異動 (平成17年4月1日付)

図書課長 後久 忠雄 (施設課長)

施設課長 福永 治久 (図書課長)

委嘱 (平成17年4月1日付)

教授 栗原 拓史 (嘱託)

教授 松村 瑛子 (嘱託)

用務員 神田 実 (嘱託)

技術職員 高橋 勉 (薬用植物園・嘱託)

校医 柚木 孝士 (非常勤)

学生相談室相談員 岡 鈴佳 (非常勤)

学生相談室相談員 児玉 陽子 (非常勤)

解嘱 (平成17年3月31日付)

教授 稲森 善彦 (嘱託)

招へい教授 (平成17年4月1日付)

濱 六郎 (客員研究員)

中川 照眞 (客員研究員)

非常勤講師 (平成17年4月1日付)

### [学部]

伊藤 信也 (洋書講読ゼミ1、人間と文化4b(女性学))

井原美保子 (看護学総論)

太田 光熙 (臨床生化学)

笠原 伸元 (医療総合講座)

草野源次郎 (天然医薬品学)

後藤 祐児 (蛋白質機能学)

小松 敏彦 (健康科学演習)

斎藤 武 (数学1)

佐野 浩一 (微生物学2)

田口 侑男 (数学1)

戸田 有一 (洋書講読ゼミ1、人間と文化1b(人間と心理))

中西 康人 (健康科学演習)

中村 恵 (ドイツ語1、ドイツ語2、ドイツ語4、  
洋書講読ゼミ1、人間と文化5a)

中村 益久 (毒性学、臨床薬理学2)

橋口 雅美 (健康科学演習)

樋口 久 (英語1)

藤田 義孝 (フランス語2、フランス語4、洋書講読ゼミ1)

榎矢 桂一 (ドイツ語1、ドイツ語2、洋書講読ゼミ1)

三谷 仁美 (人間と文化1a(人間と法))

山下一道 (洋書講読ゼミ1、人間と文化4a(人間と宗教))

山元 弘 (免疫学)

米田 孝司 (臨床検査総論)

Joseph Michael Jacobs (英語3)

Judith Lynn Ritter (英語3)

Anthony FW Foong (洋書講読ゼミ1)

宮田 真希 (健康科学演習)(非常勤助手)

鎌野 知裕 (健康科学演習)(非常勤助手)

### [大学院]

上野 和行 (臨床医学Ⅲ(臨床薬剤学Ⅱ))

中出 進 (臨床薬物動態学Ⅱ)

濱 六郎 (薬剤疫学)

林 敬次 (病態生理学Ⅰ)

平田 純生 (薬物治療学Ⅱ(臨床薬剤学Ⅰ))

藤田 譲 (臨床心理学)

三浦 克之 (薬効安全性学(医療薬学Ⅱ(薬理学)))

光木 徹 (臨床医学Ⅱ)

客員研究員 (平成17年4月1日付)

濱 六郎

中川 照眞

井尻 好雄

西 義則

(平成17年6月1日付)

木戸 勝

(平成17年7月1日付)

田川 素子

林 哲也

森 龍彦

### <法人関係>

理事・評議員退任 (平成17年3月31日付)

栗原 拓史

理事就任 (平成17年4月1日付)

石田 寿昌

評議員就任 (平成17年4月1日付)

藤田 芳一

評議員退任 (平成17年5月10日)

粟田 稔

岡本 彰

梶川 益美

後藤 俊男

島田 眞久

菅 弘之

田原 耕二

藤田 芳一

船倉 敏明

森本 史郎

評議員就任 (平成17年5月11日)

有田 浩和

池田 潔

石田 寿昌

大木 令司

大谷 光昭

岡田 健治

岡本富士雄

織田 美夫

川島 康生

小網 和秀

佐藤健太郎

澤木 茂

左右田 隆

千熊 正彦

辻坊 裕

土井 勝

東 敏夫

人見 滋樹

松谷 俊彦  
森 逸男  
山西 弘一  
油野奈那子

評議員就任 (平成17年6月1日)

植木 實  
常風 潤一

理事退任 (平成17年6月19日)

粟田 稔  
梶川 益美

理事就任 (平成17年6月20日)

有田 浩和  
池田 潔  
石田 寿昌  
岡田 健治  
川島 康生  
小網 和秀  
佐藤健太郎  
松谷 俊彦

理事長就任 (平成17年6月28日)

川島 康生

#### ■ 実験動物慰霊祭

平成16年12月8日(水)午後0時30分より講堂において、日頃実験動物を取り扱っている教職員、学生等約300名参加のもと、実験動物慰霊祭がしめやかに執り行われました。



#### ■ 大阪薬科大学ハイテク・リサーチセンター

平成16年度公開シンポジウム

平成16年12月4日(土)午後1時より、本学において、大阪薬科大学ハイテク・リサーチセンター平成16年度公開シンポジウム「DNA・RNA結合分子を標的とした疾病の発症機構の解明とその診断・予防および治療薬の開発への応用」が下記のプロプログラムにて開催されました。途中、ポスターセッションもあり、盛況裡のうちに終了しました。

1. 演 題 「三元錯体生成反応系を利用するDNA関連化合物の新規分析法の開発」  
演 者 大阪薬科大学臨床化学研究室  
助教授 藤田 芳一
2. 演 題 「分子インプリントポリマーを用いた活性医薬品のスクリーニング」  
演 者 武庫川女子大学薬学部  
教 授 萩中 淳
3. 演 題 「シスプラチン耐性を克服する白金制癌剤の開発：新規白金(II)複核錯体と核酸との相互作用」  
演 者 大阪薬科大学生体分析化学教室  
教 授 千熊 正彦
4. 演 題 「DNA・RNAの特性を活かしたテーラーメイド・バイオセンシングシステムの創製」  
演 者 甲南大学理工学部  
教 授 杉本 直己



#### ■ 学位記授与式

平成17年3月19日(土)午前10時30分より体育館において、平成16年度大阪薬科大学学位記授与式(学部236名、大学院博士前期(修士)課程56名)が来賓・保護者多数参列のもとに挙行されました。



#### ■ 同窓会賞の贈呈

学部卒業生のうち、成績最優秀者、薬学科(石谷光江)、製薬学科(安藤祐実)各1名に対し、本学同窓会から表彰状と副賞が贈呈されました(学長室にて贈呈)。



#### ■ 入学式

平成17年4月4日(月)午前10時30分より体育館において、平成17年度大阪薬科大学学部並びに大学院入学式(学部1年次312名、2年次編入7名、大学院博士前期(修士)課程62名・博士後期(博士)課程4名)が来賓・保護者多数参列のもとに挙行されました。



#### ■ 海外出張

廣谷 芳彦 講師(臨床薬剤学教室)

<出張期間:平成17年4月22日~4月29日>  
第9回国際TDM学会(ケンタッキー、アメリカ)



■ 慶 弔

<叙 勲>

久保田 晴寿 元学長（平成16年8月31日逝去）  
平成16年8月31日従三位

<訃 報>

久保 道徳 元非常勤講師（平成16年12月23日逝去）

■ 太田長世名誉教授よりの寄贈

平成16年12月4日付で太田長世名誉教授より、図書、ソテツ、生薬等をご寄贈いただきました（関連記事：図書課だより）。



■ 育友会よりの寄贈

平成16年12月25日付で育友会より、ロビーチェア、人工観葉植物（143万円）をご寄贈いただき、講義・実習棟2階ロビーに設置しました。



## 平成17年度 科学研究費補助金採択状況

| 区分  | 職名    | 氏名      | 研究種目     | 研究課題                                    | 配分額(千円)                         |       |
|-----|-------|---------|----------|---|---------------------------------|-------|
| 継 続 | 客員教授  | 小林 祐次   | 基盤研究 (B) | コラーゲンの構造安定化機構の解明                        | 2,900                           |       |
|     | 講 師   | 大石 宏文   | 基盤研究 (C) | ポリアミンと左巻きDNAの相互作用に関する構造科学的研究            | 900                             |       |
|     | 教 授   | 掛見 正郎   | 基盤研究 (C) | メカニズムに基づいたPK-PD解析モデルによる医薬品最適投与計画の再評価    | 700                             |       |
|     | 教 授   | 辻坊 裕    | 基盤研究 (C) | 細菌のキチン分解系に関する遺伝子の発現調節機構                 | 1,500                           |       |
|     | 助教授   | 春沢 信哉   | 基盤研究 (C) | RNA触媒及びH4受容体機能解明のためのイミダゾールC-ヌクレオシドの合成研究 | 700                             |       |
|     | 教 授   | 千熊 正彦   | 基盤研究 (C) | ヒドロキシ架橋型制がん活性白金複核錯体の新奇反応に関する研究          | 500                             |       |
|     | 教 授   | 栗原 拓史   | 基盤研究 (C) | イミダゾールC-ヌクレオシドの合成研究に基づくH4受容体及びRNA触媒機能解明 | 700                             |       |
|     | 特別研究員 | 米田 誠治   | 特別研究員奨励費 | アゾール架橋白金二核錯体の物理化学的性質及び生体高分子との相互作用に関する研究 | 1,100                           |       |
|     | 新 規   | 客員教授    | 小林 祐次    | 特定領域研究                                  | アディポネクチンの超分子構造・相互作用解析           | 2,100 |
|     |       | 教 授     | 石田 寿昌    | 基盤研究 (C)                                | タウ蛋白質の自己凝集機構の解明：痴呆治療薬開発のための基盤研究 | 1,800 |
| 教 授 |       | 松村 靖夫   | 基盤研究 (C) | 肺高血圧症の発症・進展機構におけるエンドセリン-1の役割と性差         | 2,600                           |       |
| 助教授 |       | 大桃 善明   | 基盤研究 (C) | シグマレセプターを標的とする癌の分子イメージング画像診断剤の開発に関する研究  | 1,000                           |       |
| 助 手 |       | 箕浦 理佐   | 若手研究 (B) | RNA触媒における擬核酸塩基としてのイミダゾールC-ヌクレオシドの機能     | 1,400                           |       |
| 合 計 |       | 13件/12名 |          |   | 17,900                          |       |



□ オープンキャンパス2005 □

本年度のオープンキャンパスは、8月5日(金)、7日(日)、18日(木)の3回開催し、プログラムは進学説明、模擬実験、学内見学、個別相談など3回共通の内容です。参加者には、大学資料、入試ガイド、入試問題集(解答、解説付)のほか、本学オリジナルグッズをプレゼントいたします。参加予約は不要ですので、直接大学へお越しください。多数の皆様のご参加をお待ちしています。

□ 平成17年度進学説明会 □

6月10日(金) ホテルグランヴィア大阪において、高等学校ならびに予備校の進路指導担当教員を対象として第1回進学説明会を開催しました。当日は、「薬学教育新制度と本学の対応」や「平成18年度入試概要」を中心に説明を行いました。説明直後ならびに個別相談の席上、両テーマについて活発な質疑応答があり、改めて薬学や本学への関心の高さを実感することができました。

なお、第2回進学説明会は、10月4日(火)に開催する予定です。

# 入試・広報課だより

## ■平成17年度 入試結果

| 入試種別 | AO入試<br>(A方式) |             |             | 公募制推薦入試<br>(S方式) |     |     | センター試験利用入試<br>(C方式) |     |       | 一般入試 I<br>(F方式) |      |     |
|------|---------------|-------------|-------------|------------------|-----|-----|---------------------|-----|-------|-----------------|------|-----|
|      | 募集人員          | 10名         |             |                  | 60名 |     |                     | 30名 |       |                 | 100名 |     |
| 性別   | 男             | 女           | 計           | 男                | 女   | 計   | 男                   | 女   | 計     | 男               | 女    | 計   |
| 志願者  | 第一次選考<br>27   | 第一次選考<br>65 | 第一次選考<br>92 | 110              | 325 | 435 | 455                 | 633 | 1,088 | 347             | 473  | 820 |
| 受験者  | 第一次選考<br>27   | 第一次選考<br>65 | 第一次選考<br>92 | 110              | 323 | 433 | 455                 | 633 | 1,088 | 342             | 463  | 805 |
| 合格者  | 第二次選考<br>3    | 第二次選考<br>8  | 第二次選考<br>11 | 13               | 81  | 94  | 91                  | 126 | 217   | 101             | 144  | 245 |
| 入学者  | 3             | 8           | 11          | 10               | 49  | 59  | 9                   | 6   | 15    | 35              | 48   | 83  |

※第一次選考は書類審査・適性確認  
※第二次選考は模擬講義・面接

## ■平成18年度 入試概要 (予定)

| 入試種別            | AO入試<br>(A方式)  | 推薦入試<br>(S方式)   | センター試験利用入試<br>(C方式)   |
|-----------------|--|---|---|
| 募集人員            | 10名  | 60名   | 30名   |
| 出願開始日           | 平成17年10月24日(月)   | 平成17年11月 1日(火)  | 平成18年 1月 6日(金)  |
| 出願締切日           | 平成17年11月 4日(金) 消印有効  | 平成17年11月 8日(火) 消印有効<br>平成17年11月 9日(水) のみ持参可   | 平成18年 1月18日(水) 消印有効   |
| 入学試験日           | 第一次選考 平成17年11月19日(土)<br>第二次選考 平成17年12月10日(土)   | 平成17年11月12日(土)  | 平成18年 1月21日(土)<br>平成18年 1月22日(日)  |
| 合格発表日           | 第一次選考 平成17年12月 2日(金)<br>第二次選考 平成17年12月20日(火)   | 平成17年11月25日(金)  | 平成18年 2月17日(金)  |
| 入学手続締切日         | 平成17年12月27日(火)(一括方式)   | 1次 平成17年12月 8日(木) (2段階方式)<br>2次 平成17年12月22日(木)  | 1次 平成18年 2月23日(木) (2段階方式)<br>2次 平成18年 3月23日(木)  |
| 試験場             | 本 学  | 本 学   |   |
| 選考内容<br>(時間・配点) | 第一次選考<br>書類審査<br>自己アピール書<br>課題レポート<br>各種証明書<br>推薦書<br>調査書<br><br>適性確認<br>[理 科] 60分<br>化学 I、生物 I から1科目を選択する<br>内容の理解度を確認する<br><br>[小論文] 75分<br>課題レポートの理解度を確認する<br><br>第二次選考<br>[模擬講義]<br>講義内容を要約する<br>[面 接] | [調査書] 150点<br>(理科、外国語の評定平均値 各25点、<br>数学、全体の評定平均値 各50点)<br>適性確認<br>[理 科] 75分 150点<br>化学 I、生物 I<br>から1科目を選択する<br><br>[外国語] 60分 100点<br>英語<br>[小論文] 60分 100点<br>理系の素養および薬学や医療<br>に対する姿勢を確認する | センター試験利用科目<br>[理 科] 200点<br>化学 I、生物 I、物理 I<br>のうち最高得点科目を採用し、<br>それを2倍する<br>[外国語] 英語(リスニングを含む) 200点<br>※記述式(200点満点)と<br>リスニング(50点満点)の合計<br>得点を200点満点に圧縮する<br>[数 学] 数学 I・数学A 100点<br>数学 II・数学B 100点<br>[国 語] 国語 100点<br>([近代以降の文章]の範囲に<br>限定する)<br>本学の個別学力検査等は実施しない |
| 判 定             | 提出書類審査、適性確認および<br>面接の結果を総合して判定する   | 適性確認等および<br>提出書類を総合して判定する   | センター試験の成績および<br>提出書類を総合して判定する   |
| 入学検定料           | 第一次選考 25,000円<br>第二次選考 10,000円   | 35,000円   | 20,000円   |
| 備 考             | 専願制  | 公募制/現役に限る   |   |

| 入試種別  | 一般入試Ⅱ<br>(G方式) |     |       | 帰国生徒特別選抜入試<br>(K方式) |   |   | 合 計   |       |       | 編入試<br>(H方式) |   |    |
|-------|----------------|-----|-------|---------------------|---|---|-------|-------|-------|--------------|---|----|
|       | 男              | 女   | 計     | 男                   | 女 | 計 | 男     | 女     | 計     | 男            | 女 | 計  |
| 募集人員  | 100名           |     |       | 若干名                 |   |   | 300名  |       |       | 6名           |   |    |
| 志 願 者 | 713            | 790 | 1,503 | 0                   | 2 | 2 | 1,652 | 2,288 | 3,940 | 8            | 9 | 17 |
| 受 験 者 | 628            | 695 | 1,323 | 0                   | 1 | 1 | 1,562 | 2,180 | 3,742 | 8            | 9 | 17 |
| 合 格 者 | 149            | 165 | 314   | 0                   | 0 | 0 | 357   | 524   | 881   | 2            | 5 | 7  |
| 入 学 者 | 69             | 75  | 144   | 0                   | 0 | 0 | 126   | 186   | 312   | 2            | 5 | 7  |

| 入試種別            | 一般入試Ⅰ<br>(F方式)  | 一般入試Ⅱ<br>(G方式)   | 帰国生徒特別選抜入試<br>(K方式)  |
|-----------------|---|--|--|
| 募集人員            | 100名  | 100名   | 若干名  |
| 出願開始日           | 平成18年 1月 6日(金)  | 平成18年 1月 6日(金)   | 平成17年10月27日(木)   |
| 出願締切日           | 平成18年 1月24日(火) 消印有効<br>平成18年 1月25日(水) のみ持参可   | 平成18年 2月 2日(木) 消印有効<br>平成18年 2月 3日(金) のみ持参可  | 平成17年11月 4日(金) 消印有効  |
| 入学試験日           | 平成18年 2月 1日(水)  | 平成18年 2月 9日(木)   | 平成17年11月12日(土)   |
| 合格発表日           | 平成18年 2月 7日(火)  | 平成18年 2月17日(金)   | 平成17年11月25日(金)   |
| 入学手続締切日         | 1次 平成18年 2月14日(火) (2段階方式)<br>2次 平成18年 3月23日(木)  | 1次 平成18年 2月23日(木) (2段階方式)<br>2次 平成18年 3月23日(木)   | 1次 平成17年12月 8日(木) (2段階方式)<br>2次 平成17年12月22日(木)   |
| 試 験 場           | 本学・大阪国際会議場・<br>広島国際会議場・高松商工会議所会館  | 本学・大阪予備校   | 本 学  |
| 選考内容<br>(時間・配点) | [理 科] 90分 100点<br>化学(化学Ⅰ、化学Ⅱ〔選択分野を含む〕<br>生物(生物Ⅰ、生物Ⅱ〔選択分野を含む〕<br>から1科目を選択する<br>※旧課程(化学ⅠB、化学Ⅱと<br>生物ⅠB、生物Ⅱ)<br>との共通範囲から出題する<br>[外国語] 75分 75点<br>英語Ⅰ<br>英語Ⅱ<br>リーディング<br>ライティング<br>[数 学] 75分 75点<br>数学Ⅰ<br>数学Ⅱ<br>数学A(集合と論理、場合の数と確率)<br>数学B(数列、ベクトル)<br>※旧課程(数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A(数と式、数<br>列)、数学B(ベクトル、複素数と複素数平面))<br>との共通範囲から出題する<br>[調査書] 150点<br>(理科、外国語、数学の評定平均値<br>各25点、<br>全体の評定平均値<br>75点) | [理 科] 90分 100点<br>化学(化学Ⅰ、化学Ⅱ〔選択分野を含む〕<br>生物(生物Ⅰ、生物Ⅱ〔選択分野を含む〕<br>から1科目を選択する<br>※旧課程(化学ⅠB、化学Ⅱと<br>生物ⅠB、生物Ⅱ)<br>との共通範囲から出題する<br>[外国語] 90分 100点<br>英語Ⅰ<br>英語Ⅱ<br>リーディング<br>ライティング<br>[数 学] 90分 100点<br>数学Ⅰ<br>数学Ⅱ<br>数学A(集合と論理、場合の数と確率)<br>数学B(数列、ベクトル)<br>※旧課程(数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A(数と式、数<br>列)、数学B(ベクトル、複素数と複素数平面))<br>との共通範囲から出題する | 適性確認<br>[理 科] 75分 150点<br>化学Ⅰ、生物Ⅰ<br>から1科目を選択する<br>[外国語] 60分 100点<br>英語<br>[小論文] 60分 100点<br>理系の素養および薬学や医療に<br>対する姿勢を確認する<br>[面 接] 学習意欲、日本語能力を確認<br>する<br>薬学を修める上で必要な分野<br>を試問する |
| 判 定             | 学力試験等および<br>提出書類を総合して判定する   | 学力試験および<br>提出書類を総合して判定する   | 適性確認、面接および<br>提出書類を総合して判定する  |
| 入学検定料           | 35,000円   | 35,000円  | 35,000円  |
| 備 考             |   |  |  |

# 学生課だより

## ○ 平成17年度 学友会執行委員会

執行委員長 森 愛弥 (アルペンスポーツクラブ)  
副執行委員長 大頭麻理子 (グループAPO薬学研究部)  
総務局長 米田 真司 (弓道部)  
厚生局長 大森 清香 (剣道部)  
広報渉外局長 江崎香菜子 (漢法医学研究部)  
体育局長 西村 幹朗 (バスケットボール部)  
文化局長 栗村 奈央 (フォークソング部)

## ○ 平成17年度 大薬祭実行委員会

実行委員長 中尾 紀文 (ソフトテニス部)  
副実行委員長 高橋 直子 (漢法医学研究部)  
総務部長 米田 真司 (弓道部)  
イベント部長 半田有希子 (ソフトテニス部)  
リサイクル部長 沓掛 和彦 (バドミントン部)  
装飾部長 杉山亜紗美 (茶道部)  
渉外部長 杉野可那子 (旅行写真部)  
渉内部長 中西 涼子 (旅行写真部)

### “財団法人小野奨学会から表彰”

昨年6月に3年次生の森岡秀彰さんが、小野奨学会(久保井一匡理事長)から善行表彰を受けました。これに続いて、今春卒業し本学大学院に進学した駒木

麗さんも3月に同奨学会から学業成績優秀者として善行表彰を受けました。駒木さんにとっては2度目の受賞で、また、本学では4人目(延べ7人目)の受賞となり、学長から表彰状と副賞が手渡されました。

### <結核にうつらない! 結核をうつさない!>

結核はかつて「国民病」「亡国病」と言われていました。現在は「過去の病気」と認識されがちですが、実は現在でも日本で最大の感染症であります。日本の結核罹患率は先進国の中でも高く、国内で、大阪府は都道府県別で東京都の次に高く、地域別では大阪市が他市より抜き出て高い結果となっています(「結核の統計2004」厚生労働省健康局結核感染症課より抜粋)。

20~50歳代の大部分の人は結核菌に未感染のため、結核菌を吸い込むと感染する可能性が高く、また、感染に気づかず受診や診断の遅れにより集団感染の感染源になることも考えられます。結核は、感染すると初期の間は風邪の症状に似ていますが、

- ①長引く咳 ②長引く微熱 ③長引く倦怠感
- ④痰が出る ⑤胸痛 ⑥体重減少

といった症状が見られる場合は、結核の疑いがありますので、早急に医療機関を受診するようにしてください。

平成17年度から「学校保健法施行規則」の改正に伴い、胸部X-P撮影対象年次生が変更になりましたが、撮影対象でない年次生も機会があれば、自ら積極的に胸部X-P撮影を行って結核の予防を心がけましょう。

保健室 辻 悦子

## 平成17年度学生定期健康診断受診状況 (4/6、7、12、18)

※全項目受診者数

| 区分  | 1年次             | 2年次             | 3年次             | 4年次             | M1             | M2              | D1           | D2         | D3           | 総計              |
|-----|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|----------------|-----------------|--------------|------------|--------------|-----------------|
| 男   | 134             | 85              | 80              | 86              | 27             | 17              | 3            | -          | 2            | 434             |
|     | 136             | 115             | 108             | 111             | 29             | 18              | 3            | -          | 2            | 522             |
| 女   | 190             | 130             | 163             | 205             | 31             | 31              | 1            | -          | 1            | 752             |
|     | 194             | 196             | 209             | 232             | 33             | 33              | 1            | -          | 1            | 899             |
| 計   | 324             | 215             | 243             | 291             | 58             | 48              | 4            | -          | 3            | 1,186           |
|     | 330             | 311             | 317             | 343             | 62             | 51              | 4            | -          | 3            | 1,421           |
| 受診率 | 98.2%<br>(97.5) | 69.1%<br>(53.3) | 76.7%<br>(56.4) | 84.8%<br>(81.7) | 93.5%<br>(100) | 94.1%<br>(91.1) | 100%<br>(->) | -<br>(100) | 100%<br>(->) | 83.5%<br>(74.2) |

< > 内は平成16年度

## 平成17年度胸部X線受診状況 (4/6、7、12、18)

| 区分  | 1年次             | 2年次             | 3年次             | 4年次             | M1             | M2              | D1           | D2         | D3           | 総計              | 職員              |
|-----|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|----------------|-----------------|--------------|------------|--------------|-----------------|-----------------|
| 男   | 134             | 87              | 80              | 86              | 27             | 17              | 3            | -          | 2            | 436             | 57              |
|     | 136             | 115             | 108             | 111             | 29             | 18              | 3            | -          | 2            | 522             | 81              |
| 女   | 190             | 144             | 166             | 208             | 31             | 33              | 1            | -          | 1            | 774             | 20              |
|     | 194             | 196             | 209             | 232             | 33             | 33              | 1            | -          | 1            | 899             | 32              |
| 計   | 324             | 231             | 246             | 294             | 58             | 50              | 4            | -          | 3            | 1,210           | 77              |
|     | 330             | 311             | 317             | 343             | 62             | 51              | 4            | -          | 3            | 1,421           | 113             |
| 受診率 | 98.2%<br>(97.5) | 74.3%<br>(53.3) | 77.6%<br>(56.4) | 85.7%<br>(81.7) | 93.5%<br>(100) | 98.0%<br>(91.1) | 100%<br>(->) | -<br>(100) | 100%<br>(->) | 85.2%<br>(74.2) | 68.1%<br>(62.5) |

< > 内は平成16年度

(ポストドクター2名(男)を含む)

## 平成16年度 保健室利用状況 (H16.4.1~H17.3.31)

| 月  | 利用者別             |              | 利用内容別        |              |                  |             |          | 計                |
|----|------------------|--------------|--------------|--------------|------------------|-------------|----------|------------------|
|    | 学生               | 職員           | 外科系          | 内科系          | 健康指導・相談          | 休養          | 転送       |                  |
| 4  | 104              | 2            | 17           | 26           | 55               | 8           | 0        | 106              |
| 5  | 371              | 9            | 29           | 39           | 300              | 12          | 0        | 380              |
| 6  | 389              | 14           | 40           | 41           | 306              | 14          | 2        | 403              |
| 7  | 389              | 9            | 31           | 43           | 313              | 11          | 0        | 398              |
| 8  | 34               | 2            | 5            | 3            | 26               | 2           | 0        | 36               |
| 9  | 142              | 9            | 15           | 36           | 94               | 6           | 0        | 151              |
| 10 | 185              | 8            | 25           | 64           | 93               | 10          | 1        | 193              |
| 11 | 164              | 12           | 22           | 44           | 102              | 6           | 2        | 176              |
| 12 | 87               | 8            | 9            | 33           | 38               | 15          | 0        | 95               |
| 1  | 58               | 12           | 11           | 21           | 35               | 3           | 0        | 70               |
| 2  | 60               | 12           | 5            | 23           | 43               | 1           | 0        | 72               |
| 3  | 40               | 11           | 2            | 17           | 30               | 1           | 1        | 51               |
| 計  | 2,023<br>(2,012) | 108<br>(149) | 211<br>(226) | 390<br>(430) | 1,435<br>(1,376) | 89<br>(126) | 6<br>(3) | 2,131<br>(2,161) |

「外科系」はガーゼ交換、湿布交換を含む。

< > 内は平成15年度

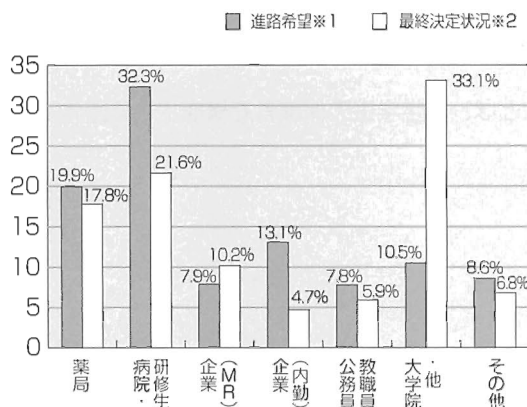
「健康指導・相談」は健康診断受診証明の発行、検尿、心電図検査、血圧測定、身長・体重測定等を含む。

# 就職課だより

平成16年度卒業生（52期生）の就職状況は、昨年同様、就職希望者についてはほぼ100%でした。52期生の進路希望（2年次生の学科配属説明会時）と最終進路（卒業時）について（図1）にまとめてみました。本学就職部委員会・就職課では、就職後の職種のミスマッチを防ぐために、3年次生全員に対する個人面談に加え、希望者を対象とした個人面接に力を注いでいます。

（図1）

平成16年度 学部卒業生(52期生)進路希望と最終進路



※1. 進路希望=3年次生就職ガイダンス(平成15年9月26日)アンケートより  
 ※2. 最終進路=平成17年3月末日現在

52期生に対しては、更に3年次生の時から学生自らが熟考して職種を決定できるように心掛け、以下の支援をしてまいりました。

1. 就職ガイダンスを27回、学内企業セミナーを2回実施〔製薬企業40社・薬局ドラッグストア49社参加〕
2. MRインターンシップの実施〔3年次生の8月に実施：7社／17名〕
3. 就職課員による進路決定等に関する個人面接の充実  
 (平成16年4月～平成17年3月：計延べ431回、212名の学生に実施)

内訳は（表1）の通りで、各職種毎に学生が頻りに就職課に相談に来ています。相談内容は進路先決定、企業選定方法、履歴書・エントリーシート記載法、面接の受け方、病院研修生の選考試験、大学院修了後の就職状況など多岐に渡っています。本年度卒業生への進路・就職支援を振り返ってみますと、就職ガイダンスの充実は勿論ですが、学生一人ひとりとの面接の重要性を改めて認識しました。就職課では、更にキャリアカウンセリングのスキルを向上させて、学生のニーズに的確に応え、個々の学生に適した進路・就職先が決定できるように支援を強化していきます。

（表1）

平成16年度 学部学生（52期生中心）『面談記録』

|                         | 回数  |     |     | 人数  |    |     |
|-------------------------|-----|-----|-----|-----|----|-----|
|                         | 計   | 男   | 女   | 計   | 男  | 女   |
| 平成16年4月<br>～<br>平成17年3月 | 431 | 122 | 309 | 212 | 64 | 148 |

（回数）

| 企業 | 企業 (MR) |    | 企業 (研究・開発等) |     | 企業 (CRO・SMO) |     | 企業 (職種未定) |    |    |   |    |    |   |    |
|----|---------|----|-------------|-----|--------------|-----|-----------|----|----|---|----|----|---|----|
|    | 計       | 男女 | 計           | 男女  | 計            | 男女  | 計         | 男女 |    |   |    |    |   |    |
| 計  | 245     | 76 | 169         | 177 | 66           | 111 | 32        | 29 | 13 | 3 | 10 | 23 | 4 | 19 |

|                         | 公務員 |    | 調剤薬局<br>ドラッグストア |    | 病院 |    | 研修生 |    | 大学院 |    | その他 |    |    |   |    |   |   |   |
|-------------------------|-----|----|-----------------|----|----|----|-----|----|-----|----|-----|----|----|---|----|---|---|---|
|                         | 計   | 男女 | 計               | 男女 | 計  | 男女 | 計   | 男女 | 計   | 男女 | 計   | 男女 |    |   |    |   |   |   |
| 平成16年4月<br>～<br>平成17年3月 | 27  | 7  | 20              | 41 | 9  | 32 | 76  | 15 | 61  | 15 | 5   | 10 | 20 | 9 | 11 | 7 | 1 | 6 |

平成16年度 大学院学生（29期生中心）『面談記録』

|                         | 回数 |    |    | 人数 |    |    |
|-------------------------|----|----|----|----|----|----|
|                         | 計  | 男  | 女  | 計  | 男  | 女  |
| 平成16年4月<br>～<br>平成17年3月 | 70 | 20 | 50 | 33 | 12 | 26 |

（回数）

| 企業 | 企業 (MR) |    | 企業 (研究・開発等) |    | 企業 (CRO・SMO) |    |    |    |   |   |   |
|----|---------|----|-------------|----|--------------|----|----|----|---|---|---|
|    | 計       | 男女 | 計           | 男女 | 計            | 男女 |    |    |   |   |   |
| 計  | 51      | 13 | 38          | -  | -            | 43 | 10 | 33 | 8 | 3 | 5 |

|                         | 公務員 |    | 調剤薬局<br>ドラッグストア |    | 病院 |    | 研修生 |    | その他 |    |   |   |   |   |
|-------------------------|-----|----|-----------------|----|----|----|-----|----|-----|----|---|---|---|---|
|                         | 計   | 男女 | 計               | 男女 | 計  | 男女 | 計   | 男女 | 計   | 男女 |   |   |   |   |
| 平成16年4月<br>～<br>平成17年3月 | 8   | 4  | 4               | -  | -  | 10 | 2   | 8  | 1   | 1  | 0 | - | - | - |

## 経理課だより

### 平成18年度 納付金一覧（予定） [薬学科（6年制課程）・薬科学科（4年制課程） 共通]

| 区 分   | 初 年 度      |          |            |
|-------|------------|----------|------------|
|       | 前 期        | 後 期      | 計          |
| 入 学 金 | 400,000円   | —        | 400,000円   |
| 学 費   | 授 業 料      | 600,000円 | 1,200,000円 |
|       | 施設・設備費     | 300,000円 | 600,000円   |
| 計     | 1,300,000円 | 900,000円 | 2,200,000円 |

\*薬学科（6年制課程）では、5年次以降、実習費を徴収することがあります。

\*学友会および育友会から徴収を委託されている納付金として、学友会入会金1,000円（初年度のみ）、学友会費5,000円および育友会費18,000円があります。

なお、学友会とは、本学学生で構成される自治団体、育友会とは、本学学生の保護者で構成される団体です。

## 図書課だより

### ◆ 寄贈図書について

太田長世名誉教授より先生のご専門分野の生薬関係を中心とした150冊余りの図書をご寄贈いただきました。先生のご芳志に感謝し「太田名誉教授寄贈図書」コーナーを図書館3階に設けております。研究あるいは学習に大切に利用してください。

また、「註頭國譯本草綱目全15巻」等の歴史的価値のある図書につきましては、図書館4階資料展示室で常時公開しております。

### ◆ ホームページについて

図書館のホームページは4月に情報システム管理支援室のご協力によりまして、リニューアルすることができました。

従来の新着図書の案内、所蔵図書の検索、文献の取り寄せ、オンラインジャーナルへのリンクのみならず、図書館からのお知らせや利用案内の新しい窓口も新設しております。

また、購入希望図書のリクエストの方法が簡単になりましたので、大いに活用してください。



## 教員研究業績 (2004年)

(2004.1.1~12.31)

## 1. 研究学術論文

| 著者  | 題目   | 掲載誌   |
|---|--|---|
| 春沢信哉, 栗原拓史, 他                               | Intracerebroventricular Administration of Histamine H <sub>3</sub> receptor Antagonists Decreases Seizures in Rat Models of Epilepsia                | <i>Methods Find Exp Clin Pharmacol.</i> , 26, 263-270(2004)             |
| 春沢信哉, 吉田憲史, 小島千ひろ, 荒木理佐, 栗原拓史               | Design and synthesis of an aminobenzo-15-crown-5-labeled estradiol tethered with disulfide linkage   | <i>Tetrahedron.</i> , 60, 11911-11922 (2004)                            |
| 荒木理佐, 春沢信哉, 山口真帆, 米澤 澄, 谷口奈津美, 他            | Synthesis of C4-linked imidazole ribonucleoside phosphoramidite with pivaloyloxymethyl(POM) group  | <i>Tetrahedron Lett.</i> , 45, 2657-2661 (2004)                         |
| 宇佐美吉英, 沼田 敦                                 | Examination of the reactivities of hydroxy groups in multioxygenated cyclohexanoids: Synthetic study toward cytotoxic pericosine B                   | <i>Chem. Pharm. Bull.</i> , 52, 1125-1129 (2004)                        |
| 宇佐美吉英, 初野千景, 山本裕絵, 田邊 学, 沼田 敦               | Synthesis of the epimer of pericosine B from (-)-quinic acid   | <i>Chem. Pharm. Bull.</i> , 52, 1130-1133 (2004)                        |
| 宇佐美吉英, 山口順子, 沼田 敦                           | Gliocladins A-C and glioperazine; cytotoxic dioxo- or trioxopiperazine metabolites from a <i>Gliocladium</i> sp. From sea hare                       | <i>Heterocycles.</i> , 63, 1123-1129 (2004)                             |
| 浦田秀仁, 熊代哲也, 赤木昌夫, 他                         | Anti-HIV-1 Activity and Mode of Action of Mirror Image Oligodeoxynucleotide Analogue of Zintevir   | <i>Biochem. Biophys. Res. Commun.</i> , 313, 55-61 (2004)               |
| 浦田秀仁, 宮腰英貴, 熊代哲也, 柚本晃志, 森 佳司, 庄司桂子, 赤木昌夫, 他 | Synthesis and hybridization properties of L-oligodeoxynucleotide analogues fixed in a low <i>anti</i> glycosyl conformation                          | <i>Org. &amp; Biomole. Chem.</i> , 2, 183-189 (2004)                    |
| 箕浦克彦, 友尾幸司, 石田寿昌, 他                         | Different associational and conformational behaviors between the second and third repeat fragments in the tau microtubule-binding domain             | <i>Eur. J. Biochem.</i> , 271, 545-552 (2004)                           |
| 箕浦克彦, 友尾幸司, 石田寿昌, 他                         | Conformational analysis of four repeat fragments in tau microtubule binding domain   | <i>Peptide Science 2003.</i> , 371-374 (2004)                           |
| 馬場きみ江, 他                                    | Inhibitory effects of esculetin on melanin biosynthesis  | <i>Biol. Pharm. Bull.</i> , 27(3): 422-425(2004)                        |
| 谷口雅彦, 馬場きみ江, 他                              | Antitumor and antimetastatic activities of 4-hydroxyderricin isolated from <i>Angelica keiskei</i> roots   | <i>Planta Med.</i> , 70: 211-219(2004)                                  |
| 馬場きみ江, 他                                    | Isolation of an anti-anginogenic substance from <i>Agaricus blazei</i> Murill: Its antitumor and antimetastatic actions                              | <i>International Journal of Cancer Science.</i> , 95 (9): 758-764(2004) |
| 芝野真喜雄, 藤本由夏, 久志野圭子, 草野源次郎, 馬場きみ江            | Biosynthesis of 1-deoxynojirimycin in <i>Commelina communis</i> : a difference between the microorganisms and plants.                                | <i>Phytochemistry.</i> , 65(19): 2661-2665(2004)                        |
| 芝野真喜雄, 高橋 勉, 谷口雅彦, 草野源次郎, 馬場きみ江             | Three new saponins as index compounds of <i>Glycyrrhiza flavescens</i> Boiss. growing in Turk Turkey   | <i>Natural Medicines.</i> , 58 (4): 150-155 (2004)                      |
| 和田俊一, 田中麗子                                  | A Novel 11-residual peptaibol-derived carrier peptide for in vitro oligodeoxynucleotide delivery into cell   | <i>Bioorg. Med. Chem. Lett.</i> , 14, 2563-2566(2004)                   |
| 田中麗子, 山口智晴, 石川陽平, 他                         | Cancer chemopreventive activity of 3 $\beta$ -methoxyerrat-14-en-21 $\beta$ -ol and several serratane analogs on two-stage mouse skin carcinogenesis | <i>Cancer Lett.</i> , 214, 149-156(2004)                                |
| 田中麗子, 南 俊史, 石川陽平, 松永春洋, 他                   | Cancer chemopreventive activity of serratane-type triterpenoids from <i>picea jezoensis</i>  | <i>Chem. Biodiv.</i> , 1, 878-885(2004)                                 |
| 田中麗子, 和田俊一, 青木 仁, 松永春洋, 他                   | Spiromarienonols A and B: two new 7(8 $\rightarrow$ 9)abeo-lanostane-type triterpene lactones from the stem bark of <i>Abies mariesii</i>            | <i>Helv. Chim. Acta.</i> , 87, 240-249 (2004)                           |
| 山田剛司, 岩本千佳, 山垣直子, 山内貴子, 箕浦克彦, 沼田 敦, 他       | Leptosins O-S, cytotoxic metabolites of a strain of <i>Leptosphaeria</i> sp. isolated from a marine alga   | <i>Heterocycles.</i> , 63, 641-653(2004)                                |
| 酒井邦佳, 福田優子, 松永春洋, 田中麗子, 他                   | New cytotoxic oleanane-type triterpenoids from the cones of <i>Liquidamber styraciflua</i>   | <i>J. Nat. Prod.</i> , 67, 1088-1093(2004)                              |
| 山田剛司, 入谷雅士, 箕浦克彦, 沼田 敦, 他                   | Peribysin A-D, potent cell-adhesion inhibitors from a sea hare-derived culture of <i>Periconia</i> species   | <i>Org. Biomol. Chem.</i> , (2), 2131-2135 (2004)                       |

| 著者  | 題目   | 掲載誌  |
|---|--|--|
| 田中麗子, 和田俊一, 木野内義孝, 松永春洋, 他                    | A new seco-abietane-type diterpene from the stem bark of <i>Picea glehni</i>   | <i>Planta Med.</i> , 70, 877-880(2004)                     |
| 田中麗子, 木野内義孝, 和田俊一, 他                          | Potential anti-tumor promoting activity of lupane-type triterpenoids from the stem bark of <i>Glochidion zeylanicum</i> and <i>Phyllanthus flexuosus</i>   | <i>Planta Med.</i> , 70, 1234-1236(2004)                   |
| 平岡周子, T.M-Yao, 箕浦克彦, 友尾幸司, 石田寿昌, 他            | Conformational transition state is responsible for assembly of microtubule-binding domain of tau protein   | <i>Biochem. Biophys. Res. Commun.</i> , 315, 659-663(2004) |
| 若原章男, 石田寿昌                                    | Novel 1-D water nanowires in crystal of an organic host  | <i>Chem. Lett.</i> , 33, 354-355(2004)                     |
| 尹 康子, 友尾幸司, 石田寿昌, 他                           | Crystal and molecular structure of an(s)-(+)-enantiomer of modafinil, a novel wake-promoting agent   | <i>Chem. Pharm. Bull.</i> , 52, 1186-1189(2004)            |
| 石田寿昌, 他                                       | Structural scaffold of 18-crown-6 tetracarboxylic acid for optical resolution of chiral amino acid: X-ray crystal analyses and energy calculations of complexes of D- and L-isomers of tyrosine, isoleucine, methionine and phenylglycine.   | <i>Org. Biomol. Chem.</i> , 2, 3470-3475(2004)             |
| 友尾幸司, T.M-Yao, 平岡周子, 時政真理, 石田寿昌, 他            | Analysis of aggregation mechanism of microtubule binding domain in tau protein   | <i>Peptide Science.</i> , 2003, 303-306(2004)              |
| 大石宏文, 石田寿昌, 他                                 | Berberine/ $\gamma$ -cyclodextrin inclusion structure studied by $^1\text{H-NMR}$ spectroscopy and molecular-dynamics calculations   | <i>Helv.Chim.Acta.</i> , 87,264-271(2004)                  |
| 土井光暢, 他                                       | Chiral centers in the side chains of $\alpha$ -amino acids control the helical screw sense of peptides   | <i>Angew. Chem. Int. Ed.</i> , 43, 5360-5363(2004)         |
| 土井光暢, 浅野晶子                                    | Turn-over of an oxazoline ring induced by chiral change of a folded ascidiacyclamide analogue: cyclo(Ile-D-aThr-D-Val-Thz-Ile-D-Oxz-D-Val-Thz)N,N-dimethylformamide disolvate  | <i>Acta Cryst.</i> , E60, o2449-o2451(2004)                |
| 土井光暢, 他                                       | Rigid backbone moiety of KNI-272, a highly selective HIV protease inhibitor: Methanol, acetone and dimethylsulfoxide solvated forms of 3-[3-benzyl-2-hydroxy-9-(isoquinolin-5-yloxy)-6-methylsulfanylmethyl-5,8-dioxo-4,7-diazanonanoyl]-N-tert-butyl-1,3-thiazolidine-4-carboxamide | <i>Acta Cryst.</i> , B60, 433-437(2004)                    |
| 土井光暢, 中森輝恵, 芝野真喜雄, 谷口雅彦, 王 年鶴, 馬場きみ江, 千熊正彦, 他 | Candibrin A, a furanocoumarin dimer isolated from <i>Heracleum candicans</i> WALL  | <i>Acta Cryst.</i> , C60, o833-o835(2004)                  |
| 米田誠治, 千熊正彦, 他                                 | Determination of trace boron in human urine samples by ICP-AES using a solid sampling technique subsequent to concentration by a tailor-made boron-selective adsorbent   | <i>Biomed. Res. Trace Elements.</i> , 15(3), 265-267(2004) |
| 豊元 操, 奥村幸司, 矢野洋絵, 松本芳里, 井上晴嗣, 林 恭三, 池田 潔, 他   | A kinetic study on the reactions of azolato-bridged dinuclear platinum(II) complexes with guanosine 5'-monophosphate.  | <i>Eur. J. Inorg. Chem.</i> , 4828-4835(2004)              |
| 藤井 忍, 永田美智代, 森田倫生, 箕浦克彦, 池田 潔, 他              | Prostaglandins are powerful inducers of NGF and BDNF production in mouse astrocyte cultures  | <i>FEBS Lett.</i> , 562, 211-215(2004)                     |
| 藤井 忍, 吉田亜由美, 桜井砂織, 森田倫生, 池田 潔, 他              | Novel inhibition mechanism of <i>Bacillus cereus</i> sphingomyelinase by beryllium fluoride.   | <i>Arch. Biochem. Biophys.</i> , 424, 201-209(2004)        |
| 久保田高広, 宮本勝城, 安田正秀, 稲森善彦, 辻坊 裕                 | Chromogenic assay for the activity of sphingomyelinase from <i>Bacillus cereus</i> and its application to the enzymatic hydrolysis of lysophospholipids  | <i>Biol. Pharm. Bull.</i> , 27, 1725-1729(2004)            |
| 松村瑛子, 辻坊 裕, 稲森善彦, 他                           | Molecular characterization of an intracellular beta-N-acetylglucosaminidase involved in the chitin degradation system of <i>Streptomyces thermoviolaceus</i> OPC-520   | <i>Biosci. Biotechnol. Biochem.</i> , 68, 1306-1314(2004)  |
| 辻坊 裕, 小阪光生, 池西貞雄, 佐藤卓史, 宮本勝城, 稲森善彦            | Biological activity of alpha-thujaplicin, the isomer of hinokitiol   | <i>Biol. Pharm. Bull.</i> , 27, 899-902(2004)              |
| 松村瑛子, 稲森善彦, 他                                 | Molecular characterization of a high-affinity xylobiose transporter of <i>Streptomyces thermoviolaceus</i> OPC-520 and its transcriptional regulation  | <i>J. Bacteriol.</i> , 186, 1029-1037(2004)                |
| 坂口 実, 石川智恵子, 西村知朗, 杉原衣美, 松村瑛子                 | Biological activity of $\beta$ -dolabrin, $\gamma$ -thujaplicin, and 4-acetylpropolone, hinokitiol-related compounds   | <i>Biol. Pharm. Bull.</i> , 27, 1666-1669(2004)            |
| 天野富美夫, 他                                      | Neurite outgrowth-stimulating peptide derived from bovine $\kappa$ -casein   | <i>Biosci. Biotechnol. Biochem.</i> , 68, 2653-2655(2004)  |
|   | Enhanced release of prostaglandin D <sub>2</sub> during re-incubation of RAW 264.7 macrophage-like cells after treatment of both lipopolysaccharide and non-steroidal anti-inflammatory drugs  | <i>Biol. Pharm. Bull.</i> , 27, 985-991(2004)              |



| 著 者  | 題 目  | 掲 載 誌  |
|--|--|--|
| 天野富美夫, 他                                     | Identification of an oxidative stress-sensitive protein from <i>Campylobacter jejuni</i> , homologous to rubredoxin oxidoreductase/rubryerythrin         | <i>FEMS Microbiol. Lett.</i> , 235, 57-63 (2004)                       |
| 天野富美夫, 他                                     | Preventive effect of sialylglycopeptide-nondigestive polysaccharide conjugates on <i>Salmonella</i> infection  | <i>J. Agricul. Food Chem.</i> , 52, 5443-5448(2004)                    |
| 藤本陽子, 宇野絵理子, 佐久間寛                            | Effects of reactive oxygen and nitrogen species on cyclooxygenase-1 and -2 activities  | <i>Prostaglandins Leukot. Essent. Fatty Acids.</i> , 71, 335-340(2004) |
| 佐久間寛, 後藤恭子, 貞徳奈美子, 藤田 直, 藤本陽子                | Effects of antirheumatic gold compounds on the conversion of xanthine dehydrogenase to oxidase in rabbit liver cytosol in vitro                          | <i>Life Sci.</i> , 75, 1211-1218(2004)                                 |
| 藤本陽子, 米村寿光, 他                                | Nonylphenol induces the death of neural stem cells due to activation of the caspase cascade and regulation of the cell cycle                             | <i>J. Neurochem.</i> , 88, 1416-1423 (2004)                            |
| 三野芳紀, 白川昌紀, 原田勇一, 他                          | Comparison of the nucleotide sequences of ferredoxin-cDNAs among some <i>Datura</i> plants   | <i>Biol. Pharm. Bull.</i> , 27, 2038-2041 (2004)                       |
| 三野芳紀, 森山洋子, 中武祐子                             | Degradation of 2,7-dichlorodibenzo- <i>p</i> -dioxin by Fe <sup>3+</sup> -H <sub>2</sub> O <sub>2</sub> mixed reagent                                    | <i>Chemosphere.</i> , 57, 365-372(2004)                                |
| 宮崎 誠, 藤井俊樹, 三宅久美子, 掛見正郎                      | トルブタミドのPharmacokinetics-Pharmacodynamicsに及ぼす日内リズムの影響   | TDM研究, 21, 26-32(2004)   |
| 岩永一範, 他                                      | In vitro metabolism of cyclosporine A by human kidney CYP3A5   | <i>Biochem.Pharmacol.</i> , 68, 1889-1902(2004)                        |
| 西野隆雄, 他                                      | Citri unshiu pericarpium prolongs mean residence time of guaiacol after oral administration of wood creosote pill to rats                                | <i>J.Trad.Med.</i> , 21, 137-142(2004)                                 |
| 河合悦子, 玄番宗一, 他                                | Chronotoxicity of nedaplatin in rats   | <i>Chronobiology International.</i> , Vol. 21, 601-611(2004)           |
| 河合悦子, 玄番宗一, 他                                | 麻酔イヌおよびラットにおける塩酸ニカルジピン製剤(ニカルピン®注およびベルジピン®注射液)の循環器系に及ぼす作用   | 薬理と治療, Vol. 32, 543-549(2004)  |
| 岡田有加, 中田真理子, 泉本裕美, 高須まい, 田澤尚子, 高岡昌徳, 松村靖夫, 他 | Role of endothelin ETB receptor in partial ablation-induced chronic renal failure in rats  | <i>Eur.J.Pharmacol.</i> , 494, 63-71 (2004)                            |
| 西田昌広, 岡田有加, 秋吉賢志, 江城佳子, 高岡昌徳, 松村靖夫, 他        | Role of endothelin ETB receptor in the pathogenesis of monocrotaline-induced pulmonary hypertension in rats  | <i>Eur.J.Pharmacol.</i> , 496, 159-165 (2004)                          |
| 寺石紘司, 倉田隼人, 中島淳志, 高岡昌徳, 松村靖夫                 | Preventive effect of Y-27632, a selective Rho-kinase inhibitor, on ischemia/reperfusion-induced acute renal failure in rats                              | <i>Eur.J.Pharmacol.</i> , 505, 205-211 (2004)                          |
| 山本 諭, 玉井 功, 高岡昌徳, 松村靖夫                       | Role of histamine H <sub>3</sub> receptors during ischemia/reperfusion in isolated rat hearts  | <i>J.Cardiovasc.Pharmacol.</i> , 43, 353-357(2004)                     |
| 西田昌広, 江城佳子, 岡田有加, 高岡昌徳, 松村靖夫                 | Role of endothelin ET <sub>A</sub> and ET <sub>B</sub> receptors in the pathogenesis of monocrotaline-induced pulmonary hypertension                     | <i>J.Cardiovasc.Pharmacol.</i> , 44, 187-191(2004)                     |
| 山本 諭, 松本典子, 金澤充雄, 藤田真理絵, 高岡昌徳, 松村靖夫, 他       | Effects of ET <sub>A</sub> and ET <sub>B</sub> receptor blockade on post-ischemic cardiac dysfunction and norepinephrine overflow in isolated rat hearts | <i>J.Cardiovasc.Pharmacol.</i> , 44(Suppl.1), S394-S397(2004)          |
| 倉田隼人, 高岡昌徳, 久保康宏, 片山智章, 筒居秀伸, 高山淳二, 松村靖夫     | Nitric oxide protects against ischemic acute renal failure through the suppression of renal endothelin-1 overproduction                                  | <i>J.Cardiovasc.Pharmacol.</i> , 44(Suppl.1), S455-S458(2004)          |
| 柴田裕次郎, 高岡昌徳, 前川大介, 桑原千佳, 松村靖夫                | Involvement of nitric oxide in the suppressive effect of 17β-estradiol on endothelin-1 overproduction in ischemic acute renal failure                    | <i>J.Cardiovasc.Pharmacol.</i> , 44(Suppl.1), S459-S461(2004)          |
| 田澤尚子, 岡田有加, 中田真理子, 泉本裕美, 高須まい, 高岡昌徳, 松村靖夫, 他 | Exaggerated vascular and renal pathology in endothelin-B receptor-deficient rats with subtotal nephrectomy   | <i>J.Cardiovasc.Pharmacol.</i> , 44(Suppl.1), S467-S470(2004)          |
| 松本典子, 山本 諭, 高岡昌徳, 松村靖夫, 他                    | 心虚血再灌流後の機能障害とノルアドレナリン過剰放出におけるエンドセリン-1の役割   | 日本薬理学雑誌, 124(補編1), 81-82 (2004)  |
| 浦田元樹, 田中一彦, 他                                | Absorption of arbekacin onto dialysis membranes in vitro   | <i>Jpn J Ther Drug Monit.</i> , 21, 273-279 (2004)                     |

| 著者                            | 題目   | 掲載誌   |
|-------------------------------|--|---|
| 井尻好雄, 田中一彦, 他                 | Increased digitalis-like immunoreactive substances in neonatal plasma measured using fluorescence polarization immunoassay                   | <i>J. Clin. Pharma. Therapeu.</i> , 29, 565-571(2004) |
| 井尻好雄, 田中一彦, 他                 | Dialyzability of the antiepileptic drug zonisamide in patients undergoing hemodialysis   | <i>Epilepsia.</i> , 45, 924-927(2004)                 |
| 志目田由華, 田中一彦, 他                | 国立循環器病センターにおける薬剤管理指導に関する調査—パイロットスタディによる評価—   | 医療薬学, 30, 185-190(2004)                               |
| 川井仁之, 西堀崇子, 廣谷芳彦, 田中一彦, 他     | ジゴキシン服用入院患者を対象とした錠剤と散剤の血中濃度の比較検討およびその変動要因の評価   | 医療薬学, 30, 261-265(2004)                               |
| 廣谷芳彦, 西堀崇子, 田中一彦              | 病院薬剤師に対する後発医療品の使用状況に関する調査とその解析   | 医療薬学, 30, 588-593(2004)                               |
| 浦嶋和也, 寺井志織, 西堀崇子, 廣谷芳彦, 田中一彦  | 局所麻酔薬レボピバカインの心機能抑制に対する処置の検討  | 循環制御, 25, 169-175(2004)                               |
| 高見真代, 浦嶋和也, 西堀崇子, 廣谷芳彦, 田中一彦  | 虚血再灌流不整脈に及ぼすエダラボンの影響について   | 循環制御, 25, 261-266(2004)                               |
| 西原 舞, 田中一彦, 他                 | 透析患者の便秘症についての実態調査  | 透析会誌, 37, 1887-1892(2004)                             |
| 山口敬子, 井上真弓, 宮地加奈子, 臣永 宏, 藤田芳一 | Spectrophotometric Determination of Glucosamine and Its Analogous Amino Sugars with <i>o</i> -Hydroxyhydroquinonephthalein and Palladium(II) | <i>Anal. Sci.</i> , 20, 387-389(2004)                 |
| 門林宏子, 中森輝恵, 山口敬子, 藤田芳一        | Spectrophotometric Determination of DNA Binding Protein, Histone, with 3, 4, 5, 6-Tetrafluoro-2-carboxyphenylfluorone and Manganese(II)      | <i>Chem. Lett.</i> , 33, 610-611(2004)                |
| 太田早苗, 山口敬子, 藤田芳一              | レゾルシノールとプロピオンアルデヒドの縮合反応を利用するピロリン酸の蛍光光度定量   | 分析化学, 53, 959-963(2004)                               |
| 藤本裕介, 藤本 剛, 山口敬子, 藤田芳一        | <i>N, N</i> -ジエチル-1, 4-フェニレンジアミンを用いる $p$ -キノンの吸光度定量  | 分析化学, 53, 1093-1096(2004)                             |
| 藤田芳一, 他                       | 試験紙法による尿中クレアチニン簡便測定法の基礎的研究   | 医療と検査機器・試薬, 27, 283-290(2004)                         |

## 2. 総説・解説

| 著者                  | 題目   | 書名または掲載誌 (出版社)   |
|---------------------|--|--|
| 荒木理佐                | H <sub>4</sub> リガンドの創製を目指して                                      | 財団報, 21, 21(2004)  |
| 芝野真喜雄               | 青花( <i>Commelina communis</i> var. <i>hortensis</i> )の食後血糖上昇抑制機能 | FOOD&FOOD INGREDIENTS JOURNAL OF JAPAN, 209, 465-471(2004) |
| 原田勇一, 他             | インフルエンザウイルスに対する防御能と抗体クラススイッチおよび可変部の突然変異の必要性                      | 臨床免疫, 41, 210-212(2004)                                    |
| 松村靖夫                | セサミンの抗高血圧作用と血管内皮機能改善効果   | 治療, 86, 164-166(2004)                                      |
| 中野大介, 高岡昌徳, 松村靖夫, 他 | Antihypertensive effect of sesamin                               | <i>Vascular Disease Prevention</i> , 1, 233-241(2004)      |
| 廣谷芳彦, 田中一彦          | ジェネリック医薬品の品質・安定性   | 薬局, 55, 2859-2866(2004)                                    |
| 廣谷芳彦                | 感昌(かぜ)に使用する薬剤の知識   | 呼吸器ケア, 2, 38-44(2004)                                      |
| 廣谷芳彦                | 免疫・アレルギー性肺疾患に使用する薬剤の知識   | 呼吸器ケア, 2, 601-607(2004)                                    |
| 西堀崇子                | 市中肺炎に用いる薬剤の知識  | 呼吸器ケア, 2, 135-144(2004)                                    |

## 3. 著書

| 著者                  | 題目   | 出版社          |
|---------------------|--|--------------|
| 栗原拓史, 春沢信哉, 他       | 有機薬品製造学 第4版  | 廣川書店(2004)   |
| 馬場きみ江, 谷口雅彦, 他      | 薬学生のための天然物化学   | 南江堂(2004)    |
| 箕浦克彦, 友尾幸司, 石田寿昌, 他 | Molecular Neurobiology of Alzheimer Disease and Related Disorders. Learning deficits in N279K tau transgenic mice and an assembly model of tau protein | Karger(2004) |

| 著 者                                      | 題 目   | 出 版 社          |
|--|---|----------------|
| 千熊昌彦, 他                                  | スタンダード薬学シリーズ3 化学系薬学 I. 化学物質の性質と反応、第5章 錯体 SB030 代表的な錯体の名称、立体構造、基本的性質を説明できる、SB031   | 東京化学同人(2004)   |
| 千熊正彦, 他                                  | 薬学機器分析(第3版)、第5章 5・2画像診断技術、5・3粘度測定、5・4浸透圧測定、5・5水分測定  | 廣川書店(2004)     |
| 齊藤睦弘, 他                                  | 薬学機器分析(第3版)、第1章 1.4 原子吸光度法および原子発光分析法、第5章 5.6 熱分析法   | 廣川書店(2004)     |
| 大桃善朗                                     | New 放射化学・放射薬品学、第7章 放射性医薬品   | 廣川書店(2004)     |
| 池田 潔                                     | キャンベル・ファーレル生化学(第4版)川崎敏祐監訳、Chapter 4タンパク質の三次元構造  | 廣川書店(2004)     |
| 井上晴嗣                                     | キャンベル・ファーレル生化学(第4版)川崎敏祐監訳、Chapter 13糖質、Chapter 14解糖   | 廣川書店(2004)     |
| 辻坊 裕                                     | キチン・キトサンの開発と応用、海洋細菌のキチン分解機構とその遺伝子   | シーエムシー出版(2004) |
| 天野富美夫                                    | 食品衛生学、食品の微生物などによる汚染と健康障害  | 南江堂(2004)      |
| 原田勇一, 松村瑛子, 他                            | Options for the Control of Influenza V. International Congress Series. Unmutated immunoglobulin M can protect mice from death by influenza virus infection. | Elsevier(2004) |
| 掛見正郎, 中元英雄, 田中一彦, 西野隆雄                   | 近畿地区薬学部学生実務実習に関する協議会編「薬学生のための病院・薬局実務実習の手引き 2005年版」  | じほう社(2004)     |
| 掛見正郎, 他                                  | 辻彰編「薬剤師のための 常用医薬品情報集 2005年版」  | 廣川書店(2004)     |
| 松永佳子, 幸田祐佳, 玄番宗一                         | 腎とフリーラジカル、第7集、亜鉛の腎細胞障害におけるフリーラジカル産生とERK活性化の関与   | 東京医学社(2004)    |
| 幸田祐佳, 岡 知子, 河合悦子, 玄番宗一                   | 腎とフリーラジカル、第7集、培養腎上皮細胞LLC-PK <sub>1</sub> における低酸素再酸素化障害への一酸化窒素と細胞内カルシウム濃度の役割   | 東京医学社(2004)    |
| 倉田隼人, 高岡昌徳, 久保康宏, 片山智章, 筒居秀伸, 高山淳二, 松村靖夫 | 腎とフリーラジカル、第7集、腎虚血再灌流障害における腎交感神経系の関与と一酸化窒素の保護効果について  | 東京医学社(2004)    |
| 柴田裕次郎, 高岡昌徳, 前川大介, 桑原千佳, 松村靖夫            | 腎とフリーラジカル、第7集、腎虚血再灌流障害に対する17β-estradiolの改善効果と一酸化窒素の関与について   | 東京医学社(2004)    |
| 尾形政哉, 山岨 弘, 山下潤二, 伊藤 誠, 志目由華, 高岡昌徳, 松村靖夫 | 腎とフリーラジカル、第7集、虚血プレコンディショニングによる腎保護効果における一酸化窒素の役割   | 東京医学社(2004)    |
| 藤井俊秀, 高岡昌徳, 村岡智子, 松村靖夫                   | 腎とフリーラジカル、第7集、腎虚血再灌流障害に対するL-カルノシンの保護効果と腎交感神経系の関与  | 東京医学社(2004)    |
| 松村靖夫, 他                                  | 新薬理学テキスト、第5章平滑筋作用薬、第6章利尿薬   | 廣川書店(2004)     |
| 藤田芳一, 他                                  | ナースのための基準値ハンドブック (改訂第2版)  | 南江堂(2004)      |
| 土井 勝, 他                                  | 基礎物理学   | 共立出版(2004)     |

#### 4. 特 許

| 出 願 者   | 題 目            | 特 許 番 号                      |
|---------|----------------|------------------------------|
| 田中麗子, 他 | 発癌プロモーション抑制組成物 | 特許出願番号 特番 2004-267393 (2004) |
| 藤田芳一, 他 | クレアチニン測定用試験片   | 特開 2004-138407(2004)         |

シャクヤク *Paeonia lactiflora* PALLAS (Paeoniaceae) は、中国東北部、東シベリヤ、朝鮮半島原産の多年生草本である。同属のボタン *Paeonia suffruticosa* ANDR. とともに、世界最古の園芸植物といわれ、中国では紀元前5世紀にはすでに栽培されていたという。栽培には温暖で、湿潤な気候で、排水がよく、土層が深く、柔らかく肥沃な土壌を好む。我が国には平安時代に渡来したといわれるが詳細は明らかではない。根は分枝し細長い紡錘状で肥厚し、莖は数本が直立して、高さは60cmぐらになり、葉と同様に無毛である。初夏に枝先に直径15cmの大形の花を単生する。紅、白など花の色は多彩で、園芸品種も多い。シャクヤクの和名は、漢名の芍薬に由来している。根を薬用とするが、その歴史は古く「馬王堆医書」、ぶ い いかん「武威医簡」や「神農本草経」しんのうほんぞうけい の中品などに記載されている。「芍」は元来「勺」、「薬」は「楽」と書いた。「勺」「楽」はいずれも音が「シャク」で花の色は明るく光り輝く様から来ており、「薬」も「シャク」と読めば熟いという意味であるという。一般に薬用とされる芍薬は根が太く、有効成分のペオニフロリンを多量に含む品種が良品とされ、そのため、中国でも日本でも薬用部分の根を太らせるために、花が咲かないように蕾を取るか、花の数を減らし小さくするような栽培が工夫されてきた。内蒙古、黒竜江省東南部で産する野生の芍薬は、根が細く皮付きのまま湯通しして乾燥され、内部まで赤紫を呈しているので「赤芍」と呼ばれる。一方、奈良県、和歌山県、北海道、長野県、中国の浙江省、安徽省、四川省、北朝鮮、韓国などで栽培されている栽培種は根が太く、栽培して3~4年で根を掘り出して、根茎、ひげ根、皮などを除き、乾燥すると白い粉をふいたようになるので「白芍」と呼ばれている。

芍薬は主として鎮痛鎮痙薬、婦人用薬、駆瘀血薬と

見なされる漢方処方

に配合されており、近年、それらの作用が化学的に解明されている。モノテルペン配糖体のペオニフロリン (2~6%) とその同族体のアルピフロリン、オキシペオニフロリン、ベンゾイルオキシペオニフロリン、ペオニフロリゲノン等のほか、ガロタンニン、安息香酸などが含まれており、そのうちのペオニフロリンには中枢神経系に対する鎮痛鎮静作用、抗痙攣作用、抗炎症作用、抗アレルギー作用、体温降下作用、ペオニフロリゲノンには神経筋接合部遮断作用、さらにベンゾイルオキシペオニフロリンには駆瘀血作用のあることが明らかにされている。

芍薬と同属のボタンも「神農本草経」の中品に記載されている重要な生薬であるが、その成分のペオニールとその配糖体には抗菌作用、鎮静、解熱、鎮痙作用などの中枢神経抑制作用がある。昔から「立てば芍薬、座れば牡丹」という言葉があるが、これは女性の美しさを表す言葉として有名である。しかし、本来は健康な女性が美しいということの意味しており、腹筋の緊張をゆるめるのには芍薬、子宮などが鬱血して立ち居振る舞いが億劫になったときには牡丹が良いということの意味しているのだという。

芍薬が配合されている漢方薬は多く、一般用漢方製剤210処方中に66処方もある。なかでも風邪の初期症状に用いられる「桂枝湯」、けいしとう「葛根湯」、かっこんとう鎮痛鎮痙薬として用いられる「芍薬甘草湯」、しやくやくかんざうとうさらに血行障害のある婦人科疾患に用いられる「当帰芍薬散」とうきしやくやくさんなどは特に有名である。

(薬用植物園長 馬場きみ江)



発行  
大阪薬科大学広報委員会

〒569-1094 大阪府高槻市奈佐原4-20-1  
TEL (072) 690-1019(入試・広報課)  
FAX (072) 690-1018(     "     )  
URL <http://www.oups.ac.jp/>